



株式会社 TOA シブル
〒276-0022 千葉県八千代市上高野1728-5
TEL.047-485-7189 FAX.047-482-7090



アンケートに
ご協力お願いします

SUSTAINABILITY REPORT 2023

株式会社 TOA XIBLE



私たちには後
どれ程の時間が残されているだろう？

私たちは時と共に様々なものを創造し、
そして、失くしてしまった。

温暖化、気候変動、環境破壊、
生物多様性の損失…。

まるで砂時計の砂が落ちるように、
こぼれ落ちそうな地球の未来。
貴重な時間は刻々と過ぎ去っている。

資源再生、脱炭素、
地域社会の生態系の保護。
確かな一歩が、
地球の未来を大きく変える。

地球を守る。
未来を創る。
その力を私たちは持っている。

子どもたちが
笑顔で暮らせる未来のために。
美しい地球を次の世代へ。

決して、諦めない。
サステナブルな社会の実現を目指す。

フレキシブルな発想で、
インボッシブルをポッシブルに変える。

シブルな会社です！

Index

Our Story

企業情報

- 03 トップメッセージ
- 05 企業理念
- 07 TOAシブルのあゆみ
- 09 会社概要
- 10 財務ハイライト
- 11 TOAプロダクト
- 15 非財務ハイライト

Sustainable Management

サステナビリティ経営

- 17 サステナビリティ経営
- 18 ステークホルダーエンゲージメント
- 19 経営理念とサステナビリティの位置づけ
- 21 価値創造モデル
- 23 5つの優先課題
- 25 外部環境分析
- 27 重要課題とバリューチェーンとの関わり
- 28 重要課題とSDGsへの貢献
- 29 外部からの評価・その他外部団体への加入状況
- 30 登録、積極的な関与をしている業界団体、
会員制団体、国内外の提言機関・認定を受けている制度

Sustainable Management

サステナビリティ活動（ESG）

環境（E）

- 31 限りある資源を大切に
- 41 地球環境をクリーンに

社会（S）

- 48 地域社会との共存共栄
- 52 豊かな未来を創る組織の実現

ガバナンス（G）

- 64 揺るがない経営基盤の確立
- 70 グループ会社紹介
- 71 GRIスタンダード対照表

編集方針

「TOAサステナビリティレポート」は、株式会社TOAシブルのサステナビリティに対する考え方、中長期ビジョン、SDGsの取り組み方針や事例、パフォーマンスデータを紹介しています。株式会社TOAシブルの包括的な取り組みについて知っていただくため、適切な情報開示を推進してまいります。

対象期間

50期（2023年5月～2024年4月）

対象範囲

株式会社TOAシブルでの取り組みと活動事例

発行時期

2024年9月 次回発行予定：2025年9月

参考ガイドライン

「GRI Standards」（GRI）、SDGコンパス
※この報告書は、GRIスタンダードを参照して作成されています。

報告内容の信頼性の確保について

サステナビリティレポートに記載した取り組みの内容や実績データについては、担当部署において適切な測定及び集計確保に努めるとともに、可能な限りその方法を開示しています。

お問い合わせ窓口

〒276-0022
千葉県八千代市上高野 1728番地5
株式会社TOAシブル サステナビリティ推進室



株式会社TOAシブル

代表取締役社長兼CEO

安池 慎一郎

経営戦略と財務インパクトの成果と今後の期待

前期においては、混合燃料や潤滑油の製造販売の専門企業である「株式会社 大池」の全株式を取得いたしました。
これによりTOAグループとしての事業領域拡大とシナジー効果の創出をし、また中期経営計画「TOA2022-2025」においては、既存事業の深化をテーマに、営業・生産・研究の面において見直しを図ってまいりました。その結果、2023年度のグループ連結売上高は40.8億円とTOAシブル売上最高水準を更新することができました。
次の3か年における中期経営計画「TOA2025-2027」においてのグループ連結売上高は66億円に設定しております。先ずは、当社の主力製品であるBWF(再生固形燃料)、Reco Oil Fuel(再生重油)やMixible Oil Fuel(エマルジョン燃料)の更なる生産拡大に伴う設備投資と体制強化を実施してまいります。
次に、GHG削減の提案・実行と共に環境課題解決ソリューションの促進を実施し、その為の人員補充やDXの推進を行ってまいります。引き続きお客様に寄り添い、お客様の声を聴き、ニーズを的確に把握することで建設的なパートナーシップの構築を図り持続可能な成長と競争力を確保してまいります。

Top Message

ト ッ プ メ ッ セ ー ジ

100 年企業をめざして ～持続可能な社会づくり～

日頃より当社の事業に多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
はじめに、令和6年能登半島地震をはじめとする、国内外で発生した自然災害等で被災された皆さまに、改めて心よりお見舞い申し上げます。
昨今、地球温暖化の進行に伴う気候変動リスク、生物多様性の諸問題、社会構造の複雑化などにより、企業を取り巻く環境は急速に変化しております。私たちは地球に「緑豊かな明日を創る」ことが、企業の使命と考えております。先行き不透明な環境下の中で、100年企業に向けて邁進していくためには、企業として一丸となり不可能(インボッシブル)を可能(ポッシブル)に変えていくための発想力が必要です。当社は柔軟(フレキシブル)な発想力に加え、自社のあるべき姿や方向性、未来への可能性を明確にさせ、地域社会・地球環境との調和を大切にしながら、サステナブルな社会実現のため、企業活動に邁進していきます。

人的資本への投資とESG経営

少子高齢化の進展に伴い、労働人口の減少が加速化している昨今、企業の持続的な成長と競争力の維持に人的資本経営は不可欠といえます。当社の魅力は“社員”です。社員は宝です。当社の社員は一人ひとりが高い能力を有しており、企業はその能力を高めることで組織力、競争力が強化され、それは持続可能な会社＝社会の実現に繋がると考えております。当社はより一層人権に配慮した企業活動を推進し、人権方針の策定や、サプライチェーンの管理等の実施により、更なる透明性を確保し企業としての説明責任を果たしてまいります。

サステナビリティ領域におけるマテリアリティの変更

当社グループの活動が、環境や社会にどのような影響を及ぼすのかを把握、管理するためマテリアリティを特定しています。マテリアリティ特定後、PDCAマネジメントの実践や外部有識者をはじめとするマルチステークホルダーとの対話を図りながら50期より「TOAサステナブル戦略 2030」の改定を実施いたしました。
これまでの優先課題「①限りある資源を大切に」「②地球環境をクリーンに」は当社の本業に直結する最重要課題として据え置き、「③地域社会・経済に安心を」という課題を細分化することといたしました。「③：地域社会との共存共栄」「④：豊かな未来を創る組織の実現」「⑤：揺るがない経営基盤の確立」の5つの戦略的優先課題を設定しております。

“限りある資源を大切に”

廃棄物の適正処理体制の構築を進め、受入処理数量拡大と稼働率の向上に取り組むと共に、設備の改善や業務フローの見直しを進めます。また、再生燃料の用途拡大のために、近隣大学との協働研究によるレシピ開発とノウハウの可視化にも取り組みます。また他社製品との差別化をはかるため、当社製品にネーミングとロゴをつけることで付加価値を高め、ブランドとしての確立を図っていきます。これらの取組みにより、取扱数量を拡大させることで、CO₂の削減に寄与してまいります。

“地球環境をクリーンに”

2050年カーボンニュートラルの達成を視野に「GHG排出量の削減」の需要に対応すべく、今後も法令基準より厳しい独自基準設定による環境汚染抑止の推進や、二酸化炭素排出量の削減対策、再生可能エネルギー利用率の向上を促進してまいります。50期からは企業活動の基盤といえる自然資源を守るため、生態系の保全、水資源管理を新たなテーマとして取組みをスタートさせました。51期以降、TCFDやTNFDのフレームワークが意図しているガバナンス、戦略、リスクマネジメント、指標と目標の議論を強化していき、気候変動や生物多様性と自社の財務との関連性に対する説明責任を果たしてまいります。

“地域社会との共存共栄”

50期は、千葉県主催の学生向け工場見学会の実施や、近隣小学校向け環境教育、地域企業との協働によるイベント開催など、社会貢献活動の取組みを強化させてまいりました。その中でESD(持続可能な開発のための教育)は、子ども達だけでなく私たち大人にも必要であると実感しています。51期以降、当社はESD推進をテーマに、全てのステークホルダーが持続可能な社会を築くための力を育むことができるよう、CSR活動への積極的な参画や、学校・地域との連携協力体制をより強化し、持続可能な社会づくりの一端を担ってまいります。

実現したい未来

「自然と共に生きる未来を創造する」ため、私たちは5つの重要課題に真摯に取り組んでまいります。廃棄物は資源であり、廃棄物の処理はリサイクル＝「ものづくり」です。私たちはその観念のもと、循環型社会の構築の実現により、地球に優しい企業、そして一層社会に貢献していく企業として成長を続けてまいります。また、社員一人ひとりが仕事に誇りを持ち、情熱的かつ柔軟な発想の創出がより一層醸成され、循環型製造業の意識が高まり、再生製品の品質が追求されることで、企業の財務的な価値を更に高めていけるような成長に繋がると確信しております。

“豊かな未来を創る組織の実現”

DEIの推進は当社の重要課題です。現在多様な人材が活躍できる風土を醸成すべく、環境整備を実施しております。当社では女性社員の経営参画に向けて、女性管理職の増員を進めてまいりました。今後は、既存の在り方に捉われず柔軟性を持ち、様々な年齢層の方々や障がいをもつ方々も安心して働いていただけるよう、働き方や設備の見直しを進めて参ります。また、社員が健康で安全な環境で働くことができるよう組織体制の改革を実施しました。産業廃棄物処理業界にとって安心・安全は最重要課題といえます。安全第一企業として、今後も業務に邁進してまいります。



“揺るがない経営基盤の確立”

健全な内部統制システムをもつ企業として成長を続けるべく、リスク委員会、コンプライアンス委員会の設置と共に、定期的なリスク管理に関する教育の実施や、ガバナンスの強化を進めてまいりました。また、働きやすい環境を整備するため定期的な社員アンケートを実施し社員の意見を吸い上げる仕組みを構築いたしました。51期以降は、内部管理体制をより強化してまいりたいと考えます。そして、コンプライアンス経営を推進することで、公正、透明で信頼を第一とした企業活動が永続的に行えるよう、引き続き健全性を高め、地域から選ばれる企業として活動を続けてまいります。

【49期から】

- ① 限りある資源を大切に
- ② 地球環境をクリーンに
- ③ 地域社会・経済に安心を（より豊かに）

【50期から】

- ① 限りある資源を大切に
- ② 地球環境をクリーンに
- ③ 地域社会との共存共栄
- ④ 豊かな未来を創る組織の実現
- ⑤ 揺るがない経営基盤の確立

※50期は2023年度(2023年5月～2024年4月)を指します。

Keep doing! 繋げよう未来へ

このスローガンには、未来へ繋ぐ企業として成長し続けようという私たちの強い決意が込められています。これからも環境や社会に配慮し、健全で透明性の高い経営を実践すると共に、安心安全な製品とサービスをお届けしてまいります。ステークホルダーの皆様におかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

Philosophy

企 業 理 念

「Keep Doing繋げよう未来へ」の
スローガンのもと、
持続可能な社会形成のため、
環境保全・安全への配慮など
自然との共生を基本方針とする
従来の理念を継承しつつ、
未来を繋ぐ企業として
益々社会の発展に貢献してまいります。

Mission

存在意義

わが社は、緑豊かな明日を創るため、廃棄物の再資源化並びに環境保全に向けた技術革新に取り組みます。また、豊かな人間性擁立のため、安全で健康な職場環境の形成につとめるとともに法令遵守を徹底し、広く地域・産業社会に貢献いたします。

Vision

実現したい未来

- 「自然と共に生きる未来を創造する」
～フレキシブルカンパニー TOA～
- ・ 限りある資源を大切に（再資源化）
 - ・ 地球環境をクリーンに（脱炭素社会）
 - ・ 地域社会・経済に安心を（豊かな生活）

Value

強み・価値

- ・ 技術革新
- ・ 知識と見識
- ・ ホスピタリティマインド
- ・ 安全・安心

Credo

経営理念を実践する上で、
大切にすべき7つの精神を定めました

1. おもてなしの心で、最高のサービスを提供します。
2. 時代の変化を先取りし、新しいアイデアの創出に挑戦し続けます。
3. 人間力・技術力・創造力に磨きをかけ、主体的に行動します。
4. 自己研鑽を心掛け、努力を惜みず成長し続けます。
5. 情熱・誠実・感謝をもって行動します。
6. 多様性を尊重し、互いに助け合います。
7. 共に働く仲間と家族のため、常に安全と健康を最優先します。

History

TOA シブ ル の あ ゆ み



東京都台東区において
廃油回収業を開始

1950



有限会社
東亜オイル興業所 設立

1968



株式会社 東亜オイル興業所 設立
東京都中間処理業許可取得

1975



千葉県八千代市に工場を竣工

1980



コンクリート剥離剤の
製造販売を開始

1982



大型焼却炉竣工工事

1990



BWFプラント竣工

2009



環境省より中国での油性廃棄物
リサイクル事業の市場調査を受託

2010



アールズファクトリーの全株式を取得

2012



エマルジョンプラント竣工

2021



有限会社大池の全株式を取得し、
完全子会社化

2023



インドネシアでのNEDO実証実験

2015



「TOAシブル」に社名変更

2023



創業者

長谷川恵一

社長任期
創業～1973年12月



2代目

長谷川孝江

社長任期
1974年1月～1980年4月



3代目

長谷川信也

社長任期
1980年5月～2001年2月



4代目

長谷川純也

社長任期
2001年3月～2007年4月



5代目

碩 孝光

社長任期
2007年5月～2018年7月



6代目

安池 慎一郎

社長任期
2018年8月～現在

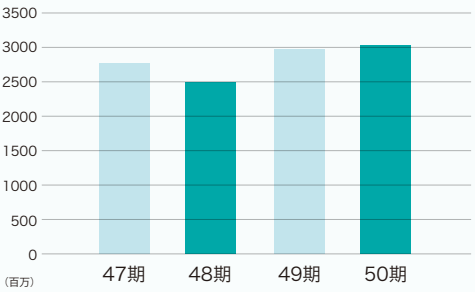
TOA

社名	株式会社TOAシブル TOA Xible Co., Ltd.
代表者	安池 慎一郎
所在地	本社・工場：千葉県八千代市上高野1728-5 北関東営業所：栃木県佐野市朝日町790-1
事業内容	産業廃棄物の収集運搬及び中間処理 再生重油の製造・販売 エマルジョン燃料の製造・販売 メンテナンス事業

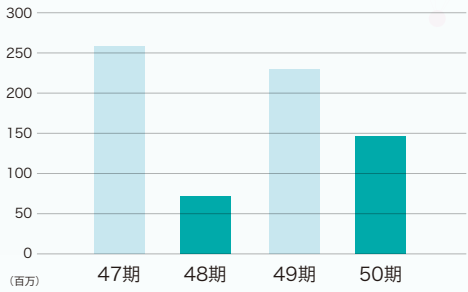
創業	1950年(昭和25年)3月
創立	1968年(昭和43年)12月
資本金	8,000万円
グループ会社	株式会社アールズファクトリー 株式会社大池
従業員数	102人(2023年5月現在)
売上高	30億円(50期：2023年5月-2024年4月)

財務ハイライト

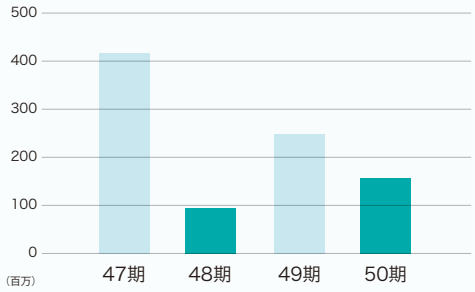
売上高



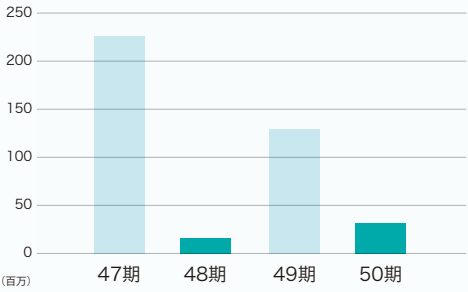
営業利益



経常利益



当期純利益

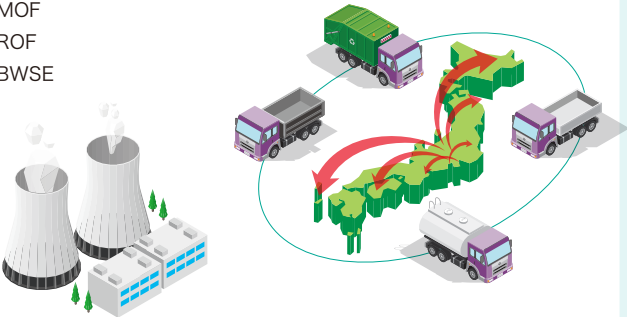


再資源化事業

中間処理・リサイクル事業

- ▶BWF
- ▶MOF
- ▶ROF
- ▶BWSE

収集運搬事業



環境保全事業

メンテナンスサービス



環境商品販売サービス





Biomass Waste Fuel
【 BWF 】



製 品：再生固形燃料
処理方法：セメント固化

その製造技術は特許を取得
(特許番号：5078628号)



名称の由来

BWFはバイオマス廃棄物燃料を示す言葉です。生物資源と油性廃棄物を中心として各素材をブレンドした当社オリジナルの再生固形燃料です。

$$\text{Biomass} \times \text{Waste} = \text{BWF}$$

シンボルマークの意味

多種類の廃棄物を均一に混ぜ合わせて製造された固形燃料であり、また燃焼により原子が変化していく段階でセメントの原材料となるという柔軟さを表現しました。当社のシンボルカラーの青の形はジクロスミキサをイメージ。全ての廃棄物と「誠実」に向き合うことで創り出された特許をもつ当社独自の燃料です。



Mixible Oil Fuel
【 MOF 】



製 品：エマルジョン燃料
処理方法：混合

特別管理産業廃棄物の処理が可能
2021年製造開始の新商品



名称の由来

ミックス(混合)と社名の「シブル」をかけあわせました。廃棄物を混ぜる(Mix)ことで、新しい燃料をフレキシブルに生み出すことができる代替燃料としての可能性は無限大の新燃料という意味です。

$$\text{Mix} \times \text{Xible} = \text{Mixible}$$

シンボルマークの意味

廃棄された油と水をMixさせ液体燃料を製造する工程をイメージとし雫の形にしました。再生燃料は地球に対する「感謝」であり、シンボルカラーである緑を中央に置いたのはその象徴です。わたしたちはこれからも感謝をもって地球環境を守っていきます。



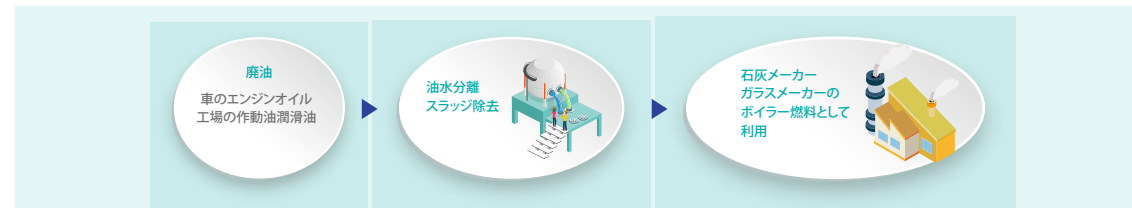


Reco Oil Fuel
【 ROF 】

製 品：再生重油
処理方法：油水分離



当社で一番歴史の古い再生燃料
JIS規格を超える高品質製品



名称の由来

【Reco】→ リサイクル・リザーブ・エコをかけあわせました。
Reは「リサイクル(再生)とリザーブ(節約)」を表しています。再生重油が資源の節約や保全になり、かつ、燃料コストの削減にも貢献する、まさに緑豊かな明日を創る「eco(エコ)」な油という意味です。



シンボルマークの意味

当社で最初に生まれた歴史のある再生燃料であることから「情熱」を表すシンボルカラーである赤を用いました。安定や永遠を表す円(O)の真ん中にはecoの「e」にもrecycleの「R」にも見えるデザインを差し込み、この燃料が地球に優しい代替燃料であることを表現しています。



Birther Waste Steam Electric
【 BWSE 】

製 品：電気・蒸気
処理方法：焼却

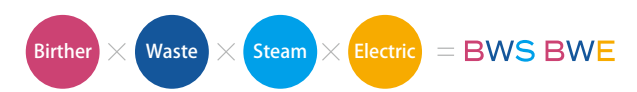


電気と蒸気を生み出す
適正処理と有効活用



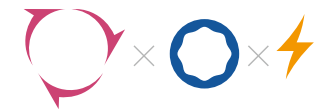
名称の由来

処理の過程で、廃棄物を最大限無害化するだけでなく、TOAオリジナルの「蒸気」と「電気」を生み出します。敷地内の他の処理工場はその電気を利用し稼働しています。BWSEは、人と地球環境に優しく、工場内で重要な役割を果たします。



シンボルマークの意味

24時間365日回転しているロータリーギルンをイメージしています。その過程で発生する蒸気、電気は主に油水分離施設に運ばれ、熱エネルギーになります。また、その他工場、自家発電施設にも運ばれます。適正処理と排熱の有効活用により、環境負荷低減に貢献しています。



ESJ優良ドライバー認定26名

ESJ優良ドライバー検定とは、エコスタッフ・ジャパン(ESJ)による、資源循環インフラを担うプロ・ドライバーとして道路交通法・廃掃法等の基本的な知識を測る検定です。ドライバー26名のうち17名がシルバー認定、9名がブロンズの認定を受けています。2023年は、ESJ認定企業の中から、研修会や検定試験などの活用状況から「人材教育に力を入れている魅力的な企業」を表彰する、「ESJ AWARD 2023」を受賞しました。引き続き、安全安心な収集運搬を行えるよう、ドライバー教育にも力を注いでいきます。



健康経営優良法人認定4年連続取得

2024年3月に経済産業省と日本健康会議が進める、健康経営優良法人認定制度において「健康経営優良法人2024」の認定を受け、4年連続の認定取得となりました。今期は、福利厚生への更なる充実や、社員の健康課題を踏まえた具体的な取り組みが評価され、この度の認定を受けることができました。社員の能力を最大限に発揮する環境を構築することが企業の役割と考えています。「共に働く仲間と家族のために」引き続き、安全と健康を最優先に、社員が健康でいきいきと働ける環境づくりに取り組んでいきます。



女性役職者比率16.7%

TOAシブルの成長に女性の活躍は不可欠であると考え、女性活躍促進に取り組んでいます。2023年、グループリダー以上を分子とする女性役職者比率は16.7%に達しました。近年では持続可能な企業を目指し積極的に人財を採用し、女性社員の割合も年々増加しています。引き続き、社員一人ひとりの価値観を尊重し、性別に関わらず能力を最大限発揮できる環境づくりに努めていきます。

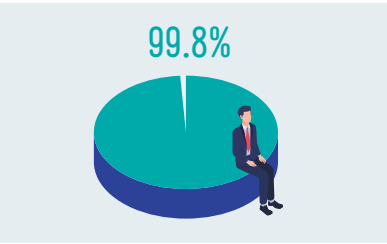
エコキャップの回収10万個以上

ペットボトルキャップを回収し、その対価で世界の子どもたちのワクチンを提供するという「エコキャップ活動」に取り組んでいます。2023年は、10社以上の協力企業様にご理解・ご支援をいただき、218.5人分のワクチン提供に貢献しました。今後も他企業の方々と協力しながら、活動を継続してまいります。



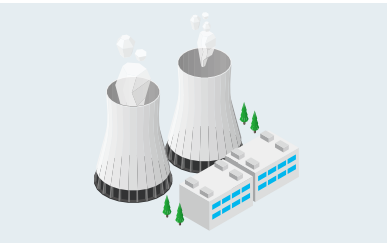
リサイクル率99.8%

自社工場による中間処理と幅広いネットワークにより、2023年のリサイクル率は99.8%となりました。当社の工場では、長年培った技術とノウハウにより、すべての油性廃棄物を再生燃料としてリサイクルしています。その他の廃棄物についても自社内の他処理施設で対応し、ワンストップ処理を実現しています。焼却処理後に排出され埋め立てられる燃え殻の量は少なく、中間処理量のうち埋立量は0.2%となっています。お客様から受け入れた廃棄物も大切な資源と考え、限りある資源を最大限活用できるよう取り組んでいきます。



年間蒸気発電量248,000kwh ※2008年～2023年実績

2023年の年間蒸気発電量は248,000kwhとなりました。2008年から、焼却によって発生する排ガスからの蒸気を利用した発電を導入し、サーマルリサイクルに取り組んでいます。また、蒸気の一部は油水分離を行うプラントで活用しています。作られた電力は事業活動で使用しており、電力調達量を減らし、CO₂の排出削減につながっています。



累計BWF製造量20万t以上 ※2008年～2023年実績

生物資源と油性廃棄物を中心にブレンドした当社オリジナルの再生固形燃料であるBWFの製造量が、20万tを超えました。リサイクルが困難とされていた廃塗料や廃インキなどの油性廃棄物から弊社独自の技術を用いて製造しております。かつ燃焼後はセメントの原材料として使用可能であり、廃棄物の削減に貢献します。また、BWFは石炭の代替燃料として使用することで、石炭と比べ18%CO₂排出量を削減でき、脱炭素にもつながります。引き続き、循環社会・脱炭素社会の実現に向け、取り組みを進めていきます。



年間休日124日

社員のワークライフバランスの確保、心身の健康促進のため、休日数の増加に取り組んでおり、2023年の年間休日は124日となりました。これは、厚生労働省(令和5年)の調査による1企業平均年間休日総数(30～99人)の109.8日を大きく上回る日数となっています。仕事と生活のバランスを整えることは社員の健康を促進し、パフォーマンスの向上、さらには企業価値の向上にもつながるという考えのもと、更なる改善を図っていきます。



サステナビリティ経営

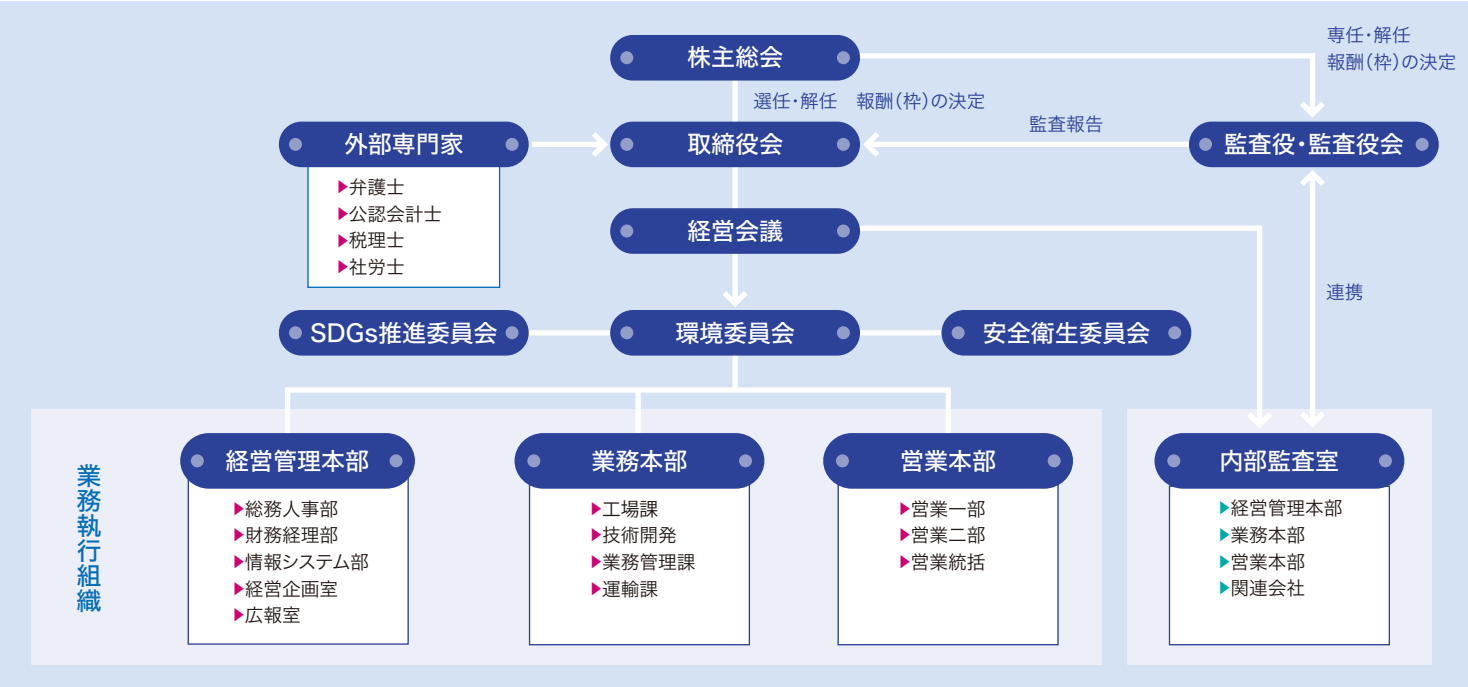


サステナビリティ基本方針

TOAシプルは、当社のVISIONである「自然と共に生きる未来を創造する」ために、経済的・環境的・社会的な各側面に配慮して事業活動を行い、さまざまなステークホルダーとよりよい信頼関係を構築し、サステナブルな社会の実現に貢献することを基本方針とする。

サステナビリティ推進体制

TOAシプルのサステナビリティ推進体制として、下図のように各部署、各委員会が自社の課題を顕在化し、解決方法や今後の方向性について連携しています。特にCSR活動や外部環境分析を行っているSDGs推進委員会、ISO14001を運用・管理する環境委員会、社員の安全・健康を守るための安全衛生委員会を設置し、社員全員でサステナビリティ推進体制を構築しています。当社は「緑豊かな明日を創るため」、そして「環境保全に向けた技術革新」の実現を目指すため、事業活動を通じ、社会課題の解決に取り組むことにより、企業価値の向上を図ります。



サステナビリティ推進における役割

SDGs推進委員会	環境委員会	安全衛生委員会
- 外部環境分析 - 各指標分析 - サステナビリティの動向にかかる情報収集 - 長期方針、目標、達成のシナリオの策定 - サステナビリティ全般の戦略立案 - 社内コミュニケーション活動 - CSR活動	- 各部門における課題抽出／進捗状況の把握 - ISO14001（環境） - マネジメントシステムに関する運用管理・監督 ※各部門から複数名参加 - 環境方針の定期的見直し	- 健康経営に関する事項 - 労働環境向上に関する企画立案及び実行 - 工場及び事業所内における安全衛生上のリスクアセスメント評価 - 安全衛生方針の定期的見直し ※各部門から複数名参加

ステークホルダーエンゲージメント

当社が応えるべき、ステークホルダーの皆様からの期待を毎年確認しております。それを糧に更なる価値の提供へ邁進しております。

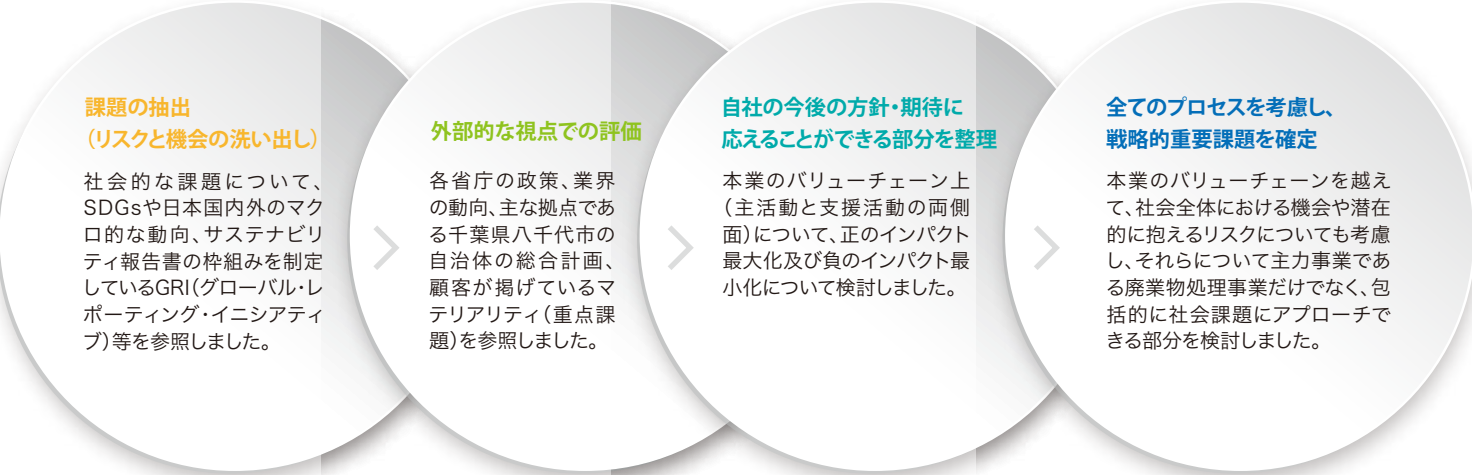
ステークホルダー	主なコミュニケーション方法・頻度	
お客様	- 営業活動(随時) - 営業活動の遂行において、お客様からの要望を確認 - 自社ホームページ、SNS、Activity Report等(随時)、サステナビリティレポート - 自社の事業内容や具体的な活動についての発信、「産廃情報ネット」による企業情報の開示	- お客様相談窓口(随時) - お電話や、問合せ窓口においてお客様からのご提案、ご意見を集約
お取引様 金融機関	- SDGsをテーマとしたセミナー等での情報発信(随時) - 関連する業界団体や取引先が参加するセミナーにて、持続可能な取組みを共有、意見交換	- ミーティング(随時) - 自社の事業に関する情報発信の実施、意見交換
地域の方々	- 近隣住民へ事業説明会(随時) - 自社の事業への理解促進、情報発信の実施	- 普及啓発活動(随時) - 近隣学校への環境教育実施・SDGsカードゲームの実施 - 地域交流(随時) - イベントへの招待、季節毎のご挨拶の実施
社会(広域)	- NGO、NPOとの協働 - 社会のニーズを把握した上で、SDGsに資する取り組みについて連携	
地球環境	- 業界団体への参加(随時) - 関連する団体にて情報開示の対応や意見交換	- 工場見学会実施(随時) - 工場見学の受け入れを実施
一緒に働く仲間	- ミーティング(随時) - 社名変更やSDGs実装等、会社の重要な情報が開示される場合には、必ず研修会を実施 - 社員総会(年1回) - 決算報告や今後の事業戦略について全従業員に周知。部門間での意見交換や相互理解を促進	

TOAシプルのこれまでの社内SDGs浸透に向けた取り組み



経営理念とサステナビリティの位置づけ

経営理念を体現化するために社会的責任を自覚し、企業としてそれに向き合う必要があると考えております。事業活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献する取組みを推進していくことで、より多くの価値創出を図り、これまで以上に皆様から信頼され信用される企業であり続けるために成長してまいります。



目指すべき方向性	重点項目
自然と共に生きる未来を創造する	● 自社の関心・重要度 ● 社会・ステークホルダーの関心・重要度
地球環境 重点テーマ① 限りある資源を大切に 重点テーマ② 地球環境をクリーンに	● 廃棄物の適正処理 ● 再資源化の推進 ● 省資源化の推進 ● 環境汚染の撲滅 ● 脱炭素 ● 生態系保全
地域社会 重点テーマ③ 地域社会との共存共栄 重点テーマ④ 豊かな未来を創る組織の実現	● 共に生きるプロジェクト ● 社会貢献活動の推進 ● ダイバーシティインクルージョン ● 安全安心な作業環境
ガバナンス 重点テーマ⑤ 揺るがない経営基盤の確立	● コンプライアンス遵守 ● ガバナンス強化

当社の活動が環境や社会にどのような影響を及ぼすのかを把握し、その影響の可能性や影響そのものを管理しながら事業を行うため、マテリアリティを特定しています。2022年度より当社としてマテリアリティを特定し、PDCAマネジメントを行っています。また、ステークホルダーからの期待についてフィードバックをいただくことで、当社が100年企業を目指すために取組むべきことを考慮しながら、必要に応じて重要課題の見直しを実施しています。具体的には、昨年度と比較して3つの重要課題を5つに変更いたしました。昨年度の重要課題に対する取組みや結果を見直し、より包括的なサステナビリティ戦略を制定いたしました。具体的には、昨年度までは①限りある資源を大切に②地球環境をクリーンに③地域社会・経済に安心を、この3つの重要課題のもと活動してまいりましたが、当社の事業に直結する重要課題「①限りある資源を大切に②地球環境をクリーンに」を据え置き、今期より、地域社会に安心を提供する企業であることはもちろんのこと、「人的資本の投資、ESG経営の強化」を推進し、社員エンゲージメントの強化、透明性のある企業でありたいという想いから、「③地域社会・経済に安心を」を3つに細分化し、5つの重要課題のもと取組みを開始いたしました。

価値創造モデル

SOCIETY

自社を取り巻く外部環境

▶環境

- ・気候変動対策の加速化
- ・サーキュラーエコノミー経済の浸透による
マテリアルリサイクルの加速化、化石燃料需要の減少
- ・地域の生態系保護に対するより一層の対応

▶経済

- ・インフレーション
- ・戦争
- ・技術革新によるビジネスモデルの変化

▶社会

- ・人口動態及び労働環境の変化
- ・パンデミック
- ・責任ある企業行動の遵守強化
- ・情報漏洩

TOAの強み・価値

安全・安心

ホスピタリティ
マインド

知識と見識

技術革新

・財務資本
・人的資本
・知的資本

・製造資本
・社会・文化資本
・自然資本

INPUT
価値創造の源

財務資本

TOAシプルが
保有する資産

人的資本

一緒に働く仲間たち

知的資本

廃棄物処理困難物や
処理効率への探求

製造資本

廃棄物の適正処理やリサイクルを
実行するために必要な設備

社会・関係資本

地域社会や行政との信頼関係をはじめ
TOAシプルがこれまで培ってきた
ステークホルダーからの理解とご支援

自然資本

事業活動をする上で
必要な水資源やエネルギー



OUTCOME

TOAのありたい姿

- ①限りある資源を大切に
- ②地球環境をクリーンに
- ③地域社会との共存共栄
- ④豊かな未来を創る組織の実現
- ⑤揺るがない経営基盤の確立

事業活動



限りある資源を大切に

サーキュラーエコノミーの達成に意欲的に
取り組み、廃棄物の適正処理継続による
リサイクル燃料の提供を通じ、マテリアル
リサイクルの加速化を推進する会社の実現



地球環境をクリーンに

カーボンニュートラルの達成に
積極的に取り組み、イノベーションの
継続的な創出と共に、自社だけでなく
地域の課題解決を担う会社の実現

OUR VISION

自然と共に生きる
未来を創造する

地域社会との共存共栄

誰一人取り残さない
地域共生社会の実現

豊かな未来を創る組織の実現

全ての社員が誇りをもって仕事に組み、
穏やかな生活を営むことができる会社の実現

揺るがない経営基盤の確立

常に安心安全を提供できる企業として
ステークホルダーから認められる会社の実現



5つの優先課題

	主なテーマ	今後 2 ～ 3 年の計画	2030 年のありたい姿
限りある資源を大切に	▶廃棄物の適正処理	・稼働率の向上を踏まえた設備改善と生産体制の構築 ・新たな技術開発による再資源化事業の拡大	サーキュラーエコノミーの達成に意欲的に取り組み、 廃棄物の適正処理継続によるリサイクル燃料の提供を通じ、 マテリアルリサイクルの加速化を推進する会社の実現
	▶再資源化の推進		
地球環境をクリーンに	▶環境汚染のコントロール ▶脱炭素社会の創造	・GHG排出量の算出と削減の明確化 ・生物多様性への取組拡大と地域の生態系調査実施	カーボンニュートラル達成に積極的に取り組み、 イノベーションの継続的な創出と共に、自社だけでなく、 地域の課題解決を担う会社の実現
	▶水資源の管理(守る・保守・保全) ▶生物多様性への貢献		
地域社会との共存共栄	▶共に生きるプロジェクト ▶社会貢献活動の推進	・環境教育等、SDGs普及活動の活発化 ・体験の機会の場合への認定・登録	誰一人取り残さない地域共生社会の実現
豊かな未来を創る組織の実現	▶有給取得率の向上 ▶残業時間の低減 ▶DXの推進 ▶社員の生活習慣病のリスク低減 ▶社員のメンタルヘルス不調の回避 ▶社員の事故ケガ発生による負傷の回避 ▶ダイバーシティインクルージョン ▶離職率の低減 ▶社員の成長	・女性職員の採用とそれに伴う職場環境改善 ・福利厚生サービスの充実 ・時間外労働の抑止と業務の平準化を目的としたシステムの導入	全ての社員が誇りを持って仕事に取り組み、 穏やかな生活を営むことができる会社の実現
揺るがない経営基盤の確立	▶環境におけるコンプライアンスの遵守 ▶社会面におけるコンプライアンスの遵守 ▶財務の健全性 ▶情報セキュリティの管理 ▶サプライチェーンマネジメント ▶コーポレートガバナンス体制の強化 ▶レジリエンス機能の強化	・全社員に対するコンプライアンス研修の定期実施 ・内部統制システムの構築	常に安心・安全を提供できる企業として ステークホルダーから認められる会社の実現

外部環境分析(環境)

気候変動対策の加速化	リスク(移行)	燃料費の高騰により、エネルギー調達コストの増加に伴い、財務を圧迫する恐れがある。
		環境への取り組みに後向きな姿勢は、レピュテーションリスクを生じさせ、企業ブランド価値の低下に繋がる恐れがある。
		炭素税(カーボンプライシング)等、温室効果ガス排出を抑制する政策導入・規制強化が今後想定されることから、対処方針を検討しておかないとオペレーションコストの増加につながる恐れがある。
		カーボンニュートラルが進行していく中で、中長期的に廃棄物の焼却による非エネルギー起源の二酸化炭素に向き合うタイミングが発生し、その対策コストが発生する恐れがある。
		サイクロンや洪水などの極端な気象事象の過酷さの増加により、労働安全衛生の強化やBCP強化への対応が求められる。
サーキュラーエコノミー経済の浸透によるマテリアルリサイクルの加速化、化石燃料需要の減少	機会	再資源化された製品の需要の増加が見込まれ、収益の増加が見込まれる。ただし、再生重油については今後の世界の評価を考慮する必要がある。
		施設の省エネルギー推進によるエネルギーコストの低減が期待され、更なる二酸化炭素排出量削減行動をとることによって、同業他社との差別化につながり、新規顧客獲得機会の増加を見込むことができる。
		再生可能エネルギー事業への需要増大により、エネルギー供給から再資源事業まで、広範にわたる環境ビジネスの市場が拡大する。
地域の生態系保護に対するより一層の対応	リスク	マテリアルリサイクルの見直しでサーマルリサイクルのマテリアルバランスの減少が生じる可能性があり、中長期的に見ると搬入量が落ち込む可能性がある。
	機会	サーキュラーエコノミーに資する処理プロセスの技術開発に注力し、再資源市場を開拓していくことで、リスクで記載した収益の下振れを抑え、上振れへ転換していけるような収益構造を目指す。
	リスク	自然環境の悪化が進み、自社が活用する自然資本へのアクセスが難しくなると追加コストが発生する。また、生態系を守る政策から逆行した事業推進をするとステークホルダーの支持を得られなくなりレピュテーションリスクが発生する。
	機会	健全な水循環・物質循環と、それを取り巻く社会・経済活動における循環への貢献と企業価値向上につながる。生物多様性を軸に、地域単位で生態系保全の取り組みを実施することで持続可能なまちづくりを進め、生物との共存共栄を図る。

外部環境分析(経済)

インフレーション	リスク	物価の高騰により、財務を圧迫する恐れがある。
	機会	生産プロセスを見直し資源投下を抑えることに成功することで、妥当な価格で製品やサービスを提供することを可能にし、市場を確保出来ることが想定される。
戦争	リスク	新施設導入のコスト増加。施設トラブルによる負傷リスクの増大。
	機会	自国におけるエネルギー等の安全保障の強化が求められており、万が一自国の資源調達難が発生した場合、自国内における資源確保の下支えに寄与することができる。
技術革新によるビジネスモデルの変化	リスク	SX(サステナビリティトランスフォーメーション)に向けた次世代技術や新技術を取り入れないと後れを取ってしまう可能性が高くなる。
	機会	革新的なサービスやビジネスモデルの創出・提供・新技術の活用による生産性の向上、サプライチェーン全体の最適化により財務内容の改善や向上につながる可能性がある。

外部環境分析(社会)

人口動態及び労働環境の変化	リスク	時代の潮流に即した労働環境の整備を講じなければサービスの質が低下し、顧客満足の低下につながる。
		働き方改革を進めないと特に過剰労働等による従業員の健康被害のリスクが増大する恐れがある。
		少子高齢化、労働人口不足、都市化が進むと人財の確保が難化する恐れがある。
	機会	仕組みや業務効率の見直し、ITなど仕事効率化技術・サービスの発展、残業時間削減の効果を目指すことで生産性向上につながる。 社員エンゲージメントの向上、ライフワークバランスの強化、様々な背景を抱える人が働きやすい職場への変革を通じて人財の確保及び離職率の抑止につながる。
パンデミック	リスク	適切な人員配置を敷くことができず、通常操業に影響を及ぼす恐れがある。
	機会	多様な働きに資する社内の仕組みを整備し、業務効率の見直しを図ることによって、レジリエンスを高めることができる。
責任ある企業行動の遵守強化	リスク	産廃区分の厳格化やリサイクルの徹底指導等により、処理対応が厳しくなる。また、コンプライアンス遵守が社内に浸透していないと、企業の信用の低下につながる。
	機会	信頼できる業者を選定した委託の増加により、廃棄物適正処理の機会が増加することにつながる。
情報漏洩	リスク	個人情報や企業情報を適正に取り扱わないと、企業の信用低下につながる。また、サイバー攻撃の件数が増加している中で、情報流出を防ぐ対策を講じる必要がある。
	機会	信頼できる業者を選定した委託の増加により、廃棄物適正処理の機会が増加することにつながる。

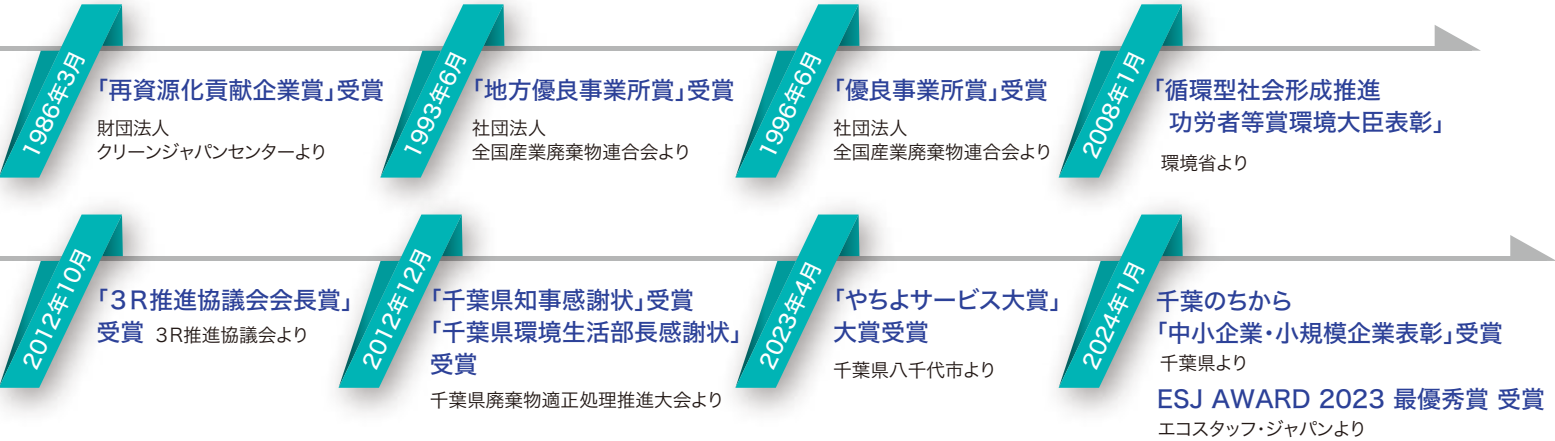
重要課題とバリューチェーンとの関わり

重点取り組みのテーマ	主活動(主に企業において価値を提供する部分)				支援活動(バリューチェーンの主活動の基盤となる部分)			
	社会	収集運搬	中間処理	リサイクル埋立	調達活動	技術開発	人事・労務管理	全般管理
限りある資源を大切に								
廃棄物の適正処理		●	●	●		●		
再資源化の推進		●	●	●		●		
省資源化の推進		●	●	●	●	●	●	●
地球環境をクリーンに								
環境汚染の撲滅		●	●	●				
脱炭素	●	●	●	●	●	●	●	●
再生可能エネルギーの利用促進		●	●	●	●	●	●	●
水資源の管理		●	●	●				
生物多様性への貢献	●	●	●	●				
共に生きるプロジェクト	●							
地域社会との共存共栄								
社会貢献活動の推進	●							
有給取得率の向上							●	
残業時間の低減							●	
DXの推進		●	●	●	●	●	●	●
社員の生活習慣病のリスク低減							●	
社員のメンタルヘルス不調の回避							●	
社員の事故怪我発生による負傷の回避		●	●	●	●	●	●	●
豊かな未来を創る組織の実現								
ダイバーシティインクルージョン							●	
離職率の低減							●	
社員の成長							●	
揺るがない経営基盤の確立								
環境におけるコンプライアンスの遵守	●	●	●	●	●	●	●	●
社会面におけるコンプライアンスの遵守	●	●	●	●	●	●	●	●
財務の健全性	●	●	●	●	●	●	●	●
情報セキュリティの管理	●	●	●	●	●	●	●	●
サプライチェーンマネジメント	●	●	●	●	●	●	●	●
コーポレートガバナンス体制の強化	●	●	●	●	●	●	●	●
レジリエンス機能の強化	●	●	●	●	●	●	●	●

重要課題とSDGsへの貢献

重点取り組みのテーマ	SDGsのゴール																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
限りある資源を大切に																	
廃棄物の適正処理												12.4 12.5					
再資源化の推進			3.9			6.3	7.3					12.4 12.5					
省資源化の推進							7.3					12.5	13.1				
地球環境をクリーンに																	
環境汚染の撲滅			3.9			6.3 6.4 6.6						12.4	13.1	14.3	15.2		
脱炭素							7.2										
再生可能エネルギーの利用促進			3.9									12.4	13.1	14.3	15.2		
水資源の管理						6.3 6.6						12.4		14.1			
生物多様性への貢献															15.5		
共に生きるプロジェクト			3.3 3.4 3.8	4.7							11.5	12.8		14.1			17.16
地域社会との共存共有																	
社会貢献活動の推進 ※文脈により貢献しうる				4							11						
有給取得率の向上					5.1 5.4			8.5									
残業時間の低減								8.5 8.8									
DXの推進								8.5 8.8									
社員の生活習慣病のリスク低減			3.4														
社員のメンタルヘルス不調の回避			3.4														
社員の事故怪我発生による負傷の回避			3					8									
豊かな未来を創る組織の実現																	
ダイバーシティインクルージョン					5.7			8.5 8.6		10.3							
離職率の低減					5.1			8.5 8.6		10.3							
社員の成長				4.3 4.4 4.5	5.1			8.2 8.5 8.8		10.3							
揺るがない経営基盤の確立 ※多岐に貢献するための基盤																	
環境におけるコンプライアンスの遵守	サステナビリティ領域におけるインパクトを発揮するための基盤																
社会面におけるコンプライアンスの遵守																	
財務の健全性																	
情報セキュリティの管理																	
サプライチェーンマネジメント																	
コーポレートガバナンス体制の強化																	
レジリエンス機能の強化																	

外部からの評価・その他外部団体への加入状況



重要な役割を担う団体のリスト

団体・機関名	団体・機関の概要	団体・機関上の要職	名前	当社における所属・役職
一般社団法人 千葉県産業資源循環協会	産業廃棄物の適正処理及び再生利用の普及、拡大及び定着の促進、資源循環の推進による産業の健全な発展並びに公衆衛生の向上、生活環境の保全による循環型社会の構築	副会長	安池 慎一郎	代表取締役社長兼CEO
全国オイルリサイクル協同組合	再生重油の共同受注および相互融通の斡旋、再生重油等の原料の共同調達、斡旋、試験分析および新製品の共同開発 他	理事長	安池 慎一郎	代表取締役社長兼CEO
千葉県産業廃棄物処理業協同組合	産業廃棄物の適正処理支援・調査等	専務理事	安池 慎一郎	代表取締役社長兼CEO
エコスタッフ・ジャパン株式会社	廃棄物処理関連教育研修・検定実施・廃棄物適正処理支援・廃棄物コンサルティング(各種調査)	取締役	古澤 孝之	専務取締役兼COO
クリーントウキョウ協同組合	産業廃棄物処理支援・調査	副理事長	古澤 孝之	専務取締役兼COO
八千代市防災協会	防火・防災に関する講習、民間防火・防災組織の育成・活動推進	理事	松山 武司	執行役員兼CSO
八千代市工場協議会	市内企業の地域間ネットワーク構築・課題解決	役員	松山 武司	執行役員兼CSO
上高野工業団地工場協議会	市内企業の地域間ネットワーク構築・課題解決	役員	松山 武司	執行役員兼CSO
千葉県環境保全協議会	環境保全に関する知識と、技術の普及啓蒙、工場、事業場等公害防止、管理の円滑な遂行	理事	茂家 貴志	営業本部 営業一部 部長

	登録、積極的な関与をしている 業界団体、会員制団体、国内外の提言機関	認定を受けている制度
限りある 資源を大切に	● 一般社団法人千葉県産業資源循環協会登録 ● 一般社団法人東京都産業資源循環協会登録 ● 首都圏廃棄物事業協同組合登録 ● エコスタッフ・ジャパン(株)登録 ● 全国オイルリサイクル協同組合登録	● ISO14001 ● 産廃エキスパート 2022.4～2025.3 取組継続中 (認定番号 5-21-A0075) 産業廃棄物処分業許可優良認定 ● 特別管理産業廃棄物処分業許可優良認定 ● 産業廃棄物収集運搬業許可優良認定 ● 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可優良認定
地球環境を クリーンに	● 30by30アライアンス登録 ● 生物多様性ちば企業ネットワーク	● SBT イニシアチブ 「Business Ambition for 1.5°C」の認定 ● CO₂CO₂スマート宣言事業所登録
地域社会との 共存共栄	● ちばSDGsパートナー登録	● ESJ優良ドライバー認定(ブロンズ・シルバー) ● 千葉県「社員いきいき！ 元気な会社宣言企業」登録 ● ちば家庭・学校・地域応援企業登録制度
豊かな未来を創る 組織の実現		● 経済産業省「健康経営優良法人」認定
揺るがない 経営基盤の確立		● 経済産業省「事業継続力強化計画」認定 ● SECURITY ACTION(二つ星)登録

環境方針

当社は、関東近郊にわたる産業廃棄物の収集運搬、中間処理の許可を有し、廃棄物の無害化処理やリサイクル製品の製造及び、環境配慮商品の流通を通じ持続可能な社会の形成に貢献しています。しかしながら、その過程においては、環境への負荷を与えていることを認識し、環境目標を定め直すとともに汚染の予防に努め、構築した環境マネジメントシステムを継続的に改善します。また、関連の法律、条令及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

私たちは、以下の項目を重点テーマとして活動を行います。

- 1.環境保全に向けた更なる技術革新により、再生重油、再生混合燃料、再生固形燃料の製造などを主体とするリサイクル事業を発展させ、再資源化を推進します。
- 2.低炭素社会の構築のため、CO₂低減に役立つ製品の製造及び設備機器導入を促進することにより、CO₂の実質的削減を目指します。
- 3.当社の販売網を通して環境保護に貢献できる商品を積極的に情報収集し、仕入れ、販売を行います。
- 4.環境負荷を低減するための未然防止活動を通じて、事故・災害・苦情を撲滅します。

この環境方針は全従業員に周知するとともに、外部からの要求に応じて公表いたします。

サステナビリティ中期目標と実績(廃棄物の適正処理)

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシプルの具体的なコミットメント	TOAシプルのコミットメントの解説	活用する数値	2021年度	2022年度	2023年度	評価	ありたい姿
12 つくる責任 つかう責任  12.4/12.5	受け入れから処理までの管理	廃棄物 処理量の増大	廃棄物の 処理量(t)	産廃 29,144t/年 有価 15,778t/年 合計 44,923t/年	産廃 32,812t/年 有価 15,038t/年 合計 47,849t/年	産廃 31,627t/年 有価 16,306t/年 合計 47,933t/年	○	予算達成に基づく数値
		廃棄物 返品数量の削減	廃棄物 返品数量(t)	産廃:47 t/年 有価:28 t/年 合計:75 t/年	産廃:20 t/年 有価:2 t/年 合計:22 t/年 禁忌品確認 1回/月実施 対象顧客への 周知実施 社員教育実施中	産廃:45 t/年 有価:1 t/年 合計:46 t/年 禁忌品確認 1回/月実施 対象顧客への 周知実施 社員教育実施中	×	返品なし(0t/年)
		処理工場 稼働率の向上	稼働率	35% (44,841t/年)	38% (48,723t/年)	39% (50,397t/年)	○	100%(127,684t/年)

戦略的優先課題(再資源化・省資源化)

搬入内訳	数値	中間処理	数値	再資源化	数値
燃え殻	98t	焼却	9,101t	燃え殻	98t
汚泥	9,844t	混合	5,303t	汚泥	7,639t
廃油	10,960t	セメント固化	20,023t	廃油	7,668t
廃酸	195t	油水分離	13,506t	廃酸	0t
廃アルカリ	1,720t	切断	0t	廃アルカリ	39t
廃プラスチック類	2,124t	合計	47,933t	廃プラスチック類	2,064t
紙くず	1,452 t			紙くず	1,452t
木くず	2,020t			木くず	2,020t
繊維くず	484t			繊維くず	484t
動植物性残さ	66t			動植物性残さ	66t
ゴムくず	0t			ゴムくず	0t
金属くず	18t			金属くず	0t
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	31t			ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	0t
鉱さい	0t			鉱さい	0t
ばいじん	0t			ばいじん	0t
特管廃油	2,418t			特管廃油	996t
特管廃酸	49t			特管廃酸	0t
特管廃アルカリ	73t			特管廃アルカリ	0t
特定有害産業廃棄物 汚泥 (1,4-ジオキサンを含むこと のみにより有害なものに限る)	0t			特定有害産業廃棄物 汚泥 (1,4-ジオキサンを含むこと のみにより有害なものに限る)	0t
特定有害産業廃棄物 廃油 (1,4-ジオキサンを含むこと のみにより有害なものに限る)	75t			特定有害産業廃棄物 廃油 (1,4-ジオキサンを含むこと のみにより有害なものに限る)	0t
特定有害産業廃棄物 廃酸 (1,4-ジオキサンを含むこと のみにより有害なものに限る)	0t			特定有害産業廃棄物 廃酸 (1,4-ジオキサンを含むこと のみにより有害なものに限る)	0t
特定有害産業廃棄物 廃アルカリ (1,4-ジオキサンを含むこと のみにより有害なものに限る)	0t			特定有害産業廃棄物 廃アルカリ (1,4-ジオキサンを含むこと のみにより有害なものに限る)	0t
合計	31,627t			合計	22,526t

搬入内訳	数値
支払仕入 廃油(油水分離)	12,713t
支払仕入 溶剤(混合)	3,593t
合計	16,306t

搬入内訳	数値
電力	1,738,023kwh
ガソリン	21,550L
軽油	293,476L
都市ガス	32,474m ³
水使用量	25,686m ³

詳細については、優良産廃処理業者認定制度に係る公表事項における「産業廃棄物の最終処分終了までの一連の処理の行程」を参照https://www2.sanpainet.or.jp/index_u5.php?Param1=8&Param2=04323&Param0=&menu=2

※50期は2023年度(2023年5月～2024年4月)を指します。

2023年の実績と今後の方針

廃棄物の適正処理

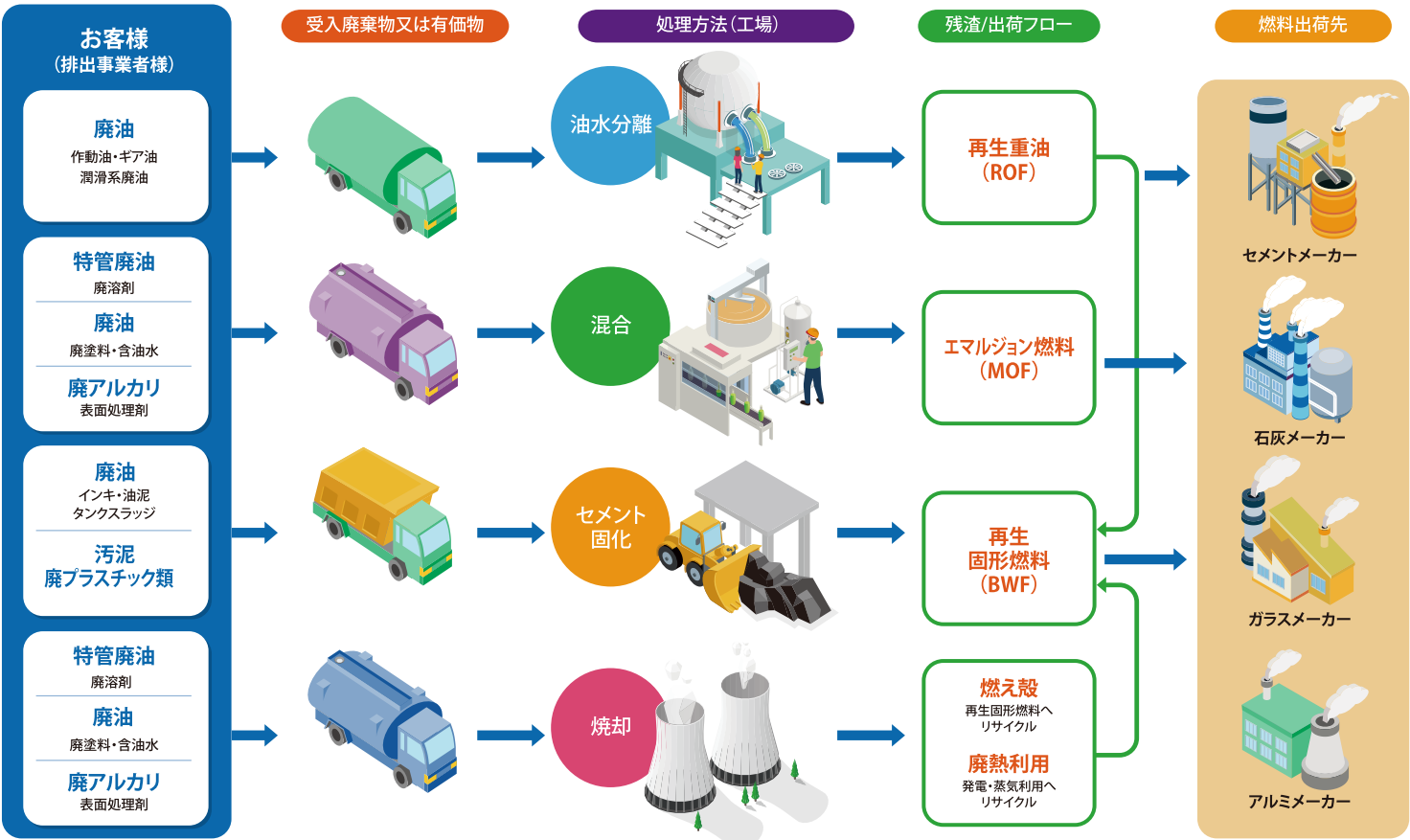
当社は中間処理業者として、責任と明瞭性を持って安心安全な適正処理を行い、リサイクル効率を更に改善することで循環型社会に貢献します。

当社にはリサイクル効率を向上させるために油水分離・混合・セメント固化・焼却の4つの施設があり、この4施設ですべてリサイクルが可能となっております。焼却施設から排出される燃え殻、製品製造過程において排出されるスラッジや固形物等、自社でリサイクルし完結させることで再資源化率の向上と高いリサイクル率を実現していきます。廃棄物の返品数量削減を継続的に行っておりますが、昨年よりも返品数量は増加してしまいました。

今後は、処理困難物の受入など受入数量増やす等、廃棄物処理量を増大し廃棄物を適正に処理することで更なる再資源化率の向上を目指します。



廃棄物処理における当社のビジネスモデル



戦略的優先課題 (廃棄物の適正処理)

セメント固化



- カロリーや性状などお客様の利用環境に合わせた製品にカスタマイズ可
- 石炭の代替燃料として、石炭使用時より18%のCO₂排出量削減 ※環境省CO₂排出係数対比による
- 万全の安全対策により安定供給可能



Biomass Waste Fuel



BWF (製品)
セメントの原燃料
(原材料+燃料)

※50期は2023年度(2023年5月~2024年4月)を指します。

戦略的優先課題(廃棄物の適正処理)

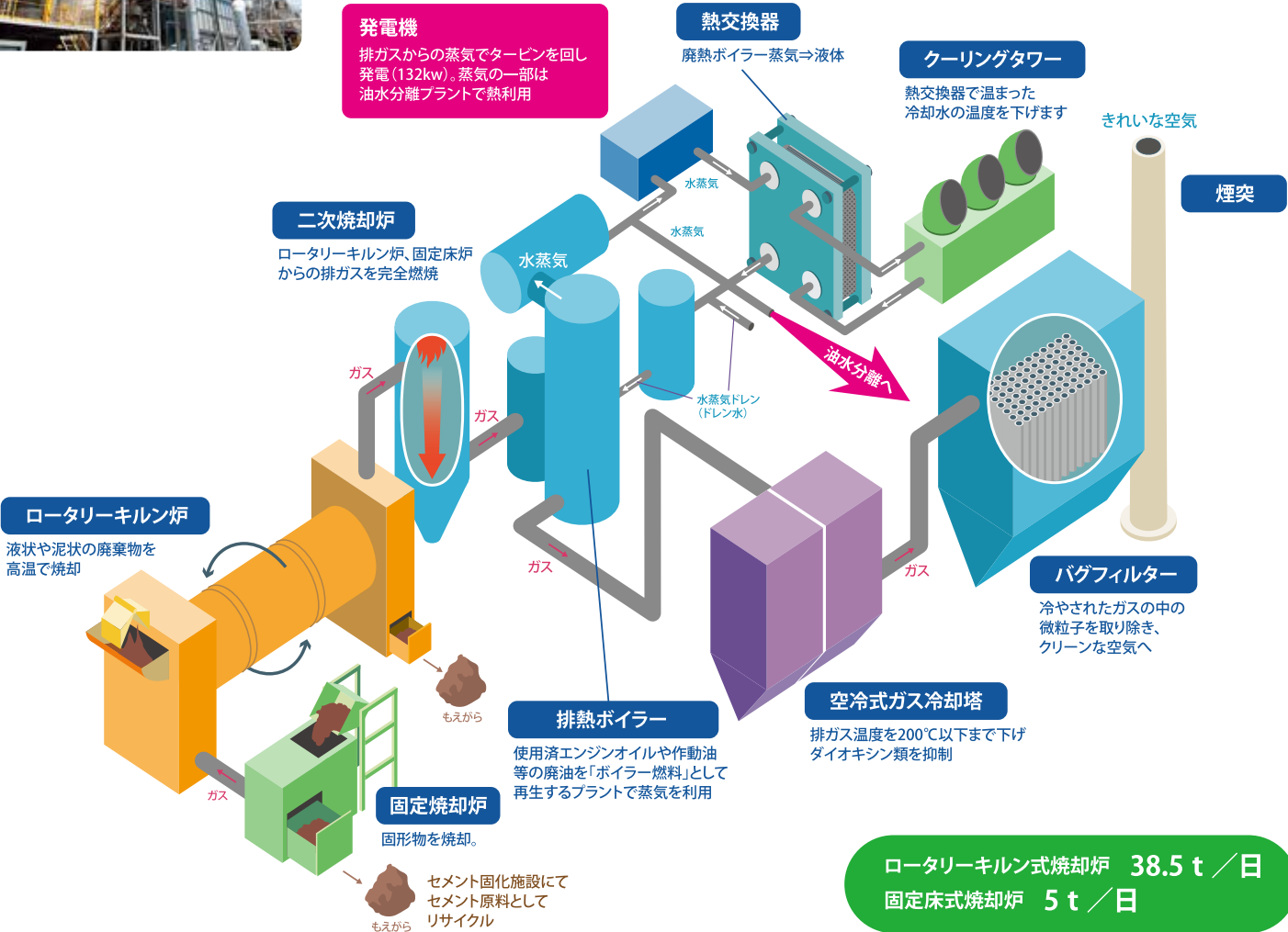
焼却



- 焼却燃料はバージン燃料を使用しない為CO₂削減に寄与
- 再生重油の水分除去に焼却エネルギーを利用
- 燃え殻はセメント固化施設にて製品のべたつき防止剤として再利用
- 工場内で排出される蒸気発電でサーマルリサイクル



Birther Waste Steam Electric



戦略的優先課題(廃棄物の適正処理)

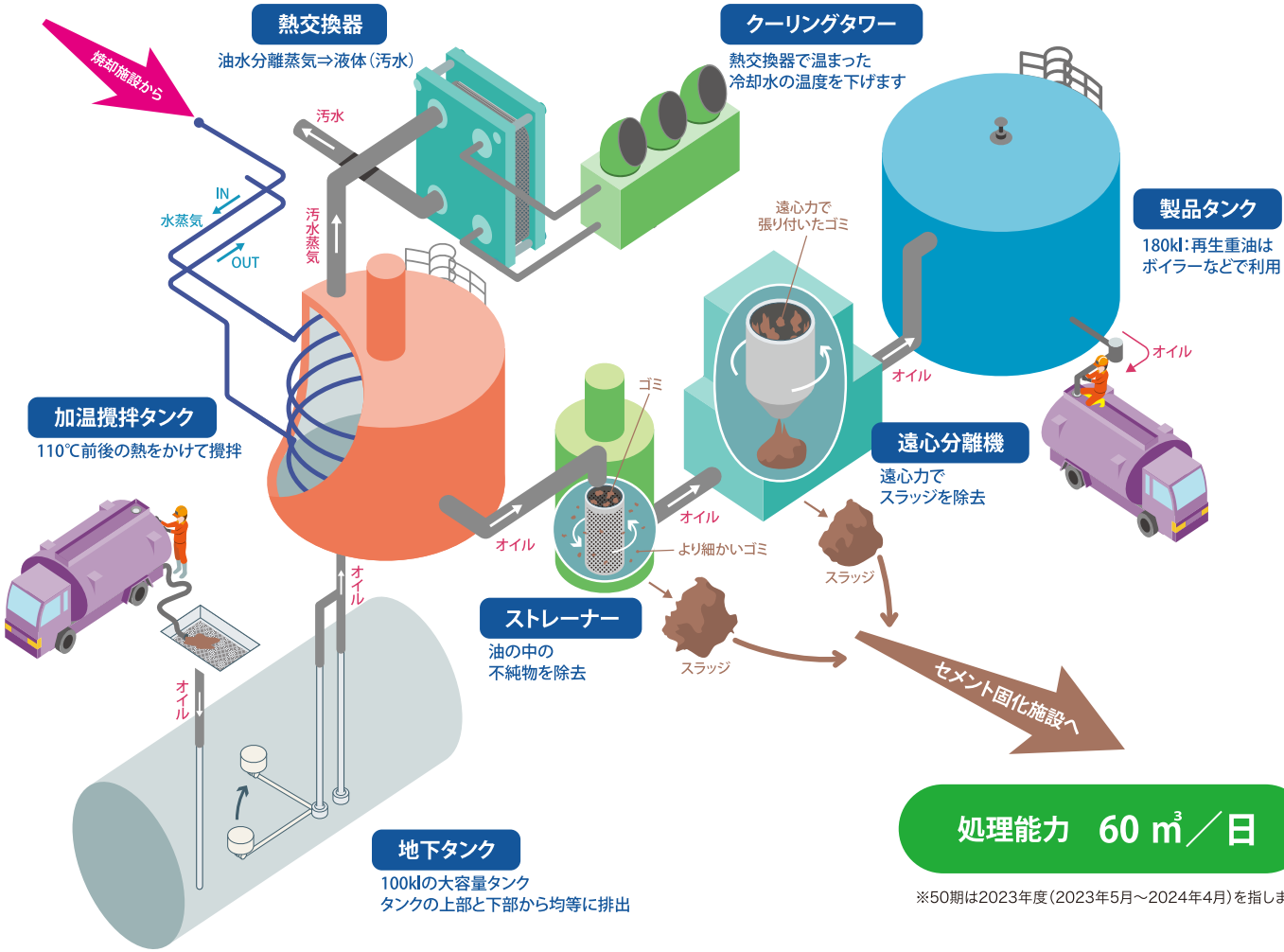
油水分離



- 地球温暖化対策推進法(温対法)では、再生重油は排出量報告時、「報告対象外」となり、CO₂排出実質ゼロとなる
- B重油の代替品
- A重油との比で4%、C重油との比で15%のCO₂削減効果 ※環境省CO₂排出係数対比による
- JIS規格(水分1%以下・硫黄分1%以下)をクリアした高品質製品を製造 → 当社規格: 水分0.3%~0.5%以下・硫黄分0.5%以下



Reco Oil Fuel



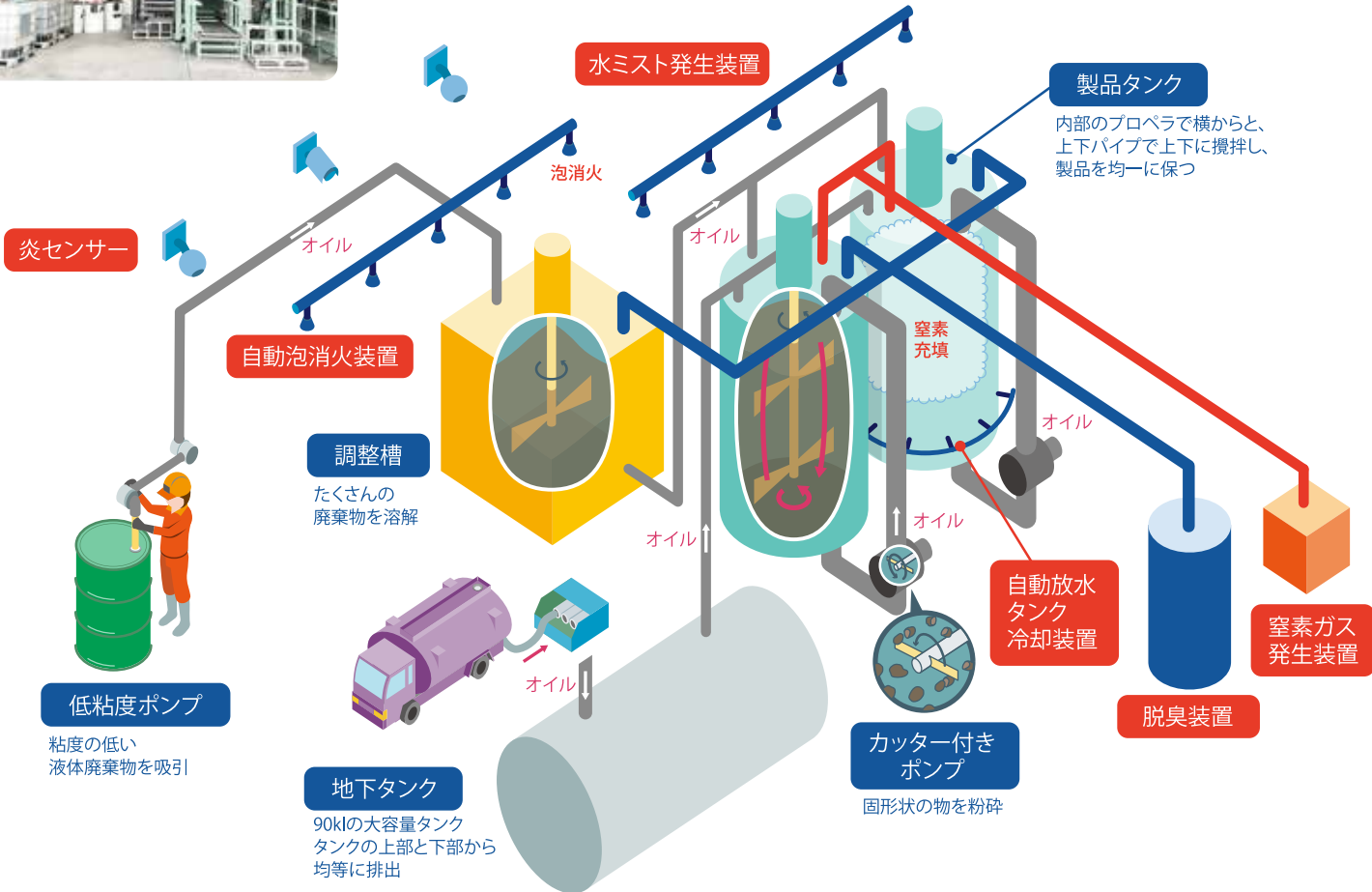
戦略的優先課題(廃棄物の適正処理)

混合



- 石炭の代替燃料として石炭使用時より21%のCO₂排出量削減
※環境省CO₂排出係数対比による
- 廃棄物処理施設では、類を見ない徹底した安全設備
- カロリーや性状などお客様の利用環境に合わせた製品にカスタマイズ可





水ミスト発生装置

製品タンク
内部のプロペラで横からと、
上下パイプで上下に攪拌し、
製品を均一に保つ

泡消火

炎センサー

自動泡消火装置

調整槽
たくさんの
廃棄物を溶解

低粘度ポンプ
粘度の低い
液体廃棄物を吸引

地下タンク
90klの大容量タンク
タンクの上部和下部から
均等に排出

自動放水
タンク
冷却装置

カッター付き
ポンプ
固形状の物を粉砕

脱臭装置

窒素ガス
発生装置

オイル

窒素充填

赤枠は安全装置の説明

処理能力 74 m³／日

サステナビリティ中期目標と実績(再資源化の推進)

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシプルの具体的なコミットメント	TOAシプルのコミットメントの解説	活用する数値	2021年度	2022年度	2023年度	評価	ありたい姿
 3.9/6.3/12.4/12.5	マテリアルリサイクル	廃棄物再資源化率の向上	再資源化率	77%	77%	80%	×	100%
 3.9/6.3/7.3/12.4/12.5	サーマルリサイクル	①排熱利用蒸気により発電量の向上 ②ボイラーガス利用の削減	①発電量 ②ボイラーガス利用料	①258,502(kwh/年) ②24,953(Nm ³ /年)	①248,485(kwh/年) ②21,693(Nm ³ /年)	①311,006(kwh/年) ②22,492(Nm ³ /年)	×	①950,400(kwh/年) ②15,000(Nm ³ /年)
 7.3/13.1	省エネルギー(電気・ガス・燃料)	使用するエネルギーの削減削減率の向上	エネルギー使用量削減率	5,729(t-CO ₂ /年) 25%増加	4,702(t-CO ₂ /年) 3%増加	4,597(t-CO ₂ /年) 0%	×	25%減(3,424 t-CO ₂ /年)
 12.5	省資源(紙・プラ)	使用する紙・プラ製品の削減削減率の向上	使用量削減率	紙:削減量2(t/年) プラ:保留	紙:削減量1.81(t/年) 削減率9.3% プラ:保留	紙:削減量1.65(t/年) 削減率17.3% プラ:保留	○	紙の使用をゼロにする プラスチック利用の削減

※50期は2023年度(2023年5月～2024年4月)を指します。

2023年の実績と今後の方針

マテリアルリサイクル

再資源化率向上のため、廃棄物の分別徹底に力を入れておりますが、これは排出事業者様のご理解ご協力をいただきながら進めております。廃棄物の適切な分別により返品件数の削減にもつながると共に、より多くの廃棄物を燃料や原料として再利用できるようリサイクルにおける技術革新を進めています。

省エネルギー（電気・ガス・燃料）

当社では、エネルギー使用の削減のため以下の取り組みを推進し、CO₂排出量を2030年までに25%削減することを目指します。

- ・休憩時間の消灯、事務棟での太陽光の採光推進、残業時間削減による電力使用量の削減
- ・太陽光パネルを使用したEV車両の充電器の導入によるモバイル等の充電
- ・クールビズ・ウォームビズ実施によるエアコンや着衣での温度調整による電力使用量削減
- ・営業本部における在宅勤務や直行直帰の活用、公共交通機関の積極的活用
- ・フォークリフトEV化の推進（今期4台導入）



省資源（紙・プラ）

紙使用量削減の一環として、今期工場内にタブレットを複数台導入しました。工場の安全チェックリスト、品質管理シート等全て端末上で管理が可能となり、業務の効率性向上に繋がっています。また、事務棟では昨年に引き続き、社内申請書類のDX化を進めております。それに並行して、紙を使用する場合は分別やりサイクル、裏紙の積極的な活用を行っています。プラスチック利用の削減に関しては、具体的な取組みを試案中で、来期新たな取組みをスタートしたいと考えております。

サーマルリサイクル

ボイラーガス利用の削減を目標にしておりますが、2023年度は、ボイラー周辺で工事が数回発生したため、ガスの利用量が増えております。今後、焼却炉定期修繕期間の短縮により、これまで以上の安定稼働を図るべく、耐火材を変えるなど実証実験を行っております。更なる技術革新を推進し、サーマルリサイクルに貢献してまいります。



マテリアルリサイクルの推進



フォークリフトのEV化



再資源化の向上



Xible' s Voice

当社は1950年の創業当時から、「廃棄物の完全リサイクル」を目標に掲げ、74年経過した今も環境保全と再資源化にアプローチし続けています。

主要事業の1つである「再資源化事業」は、SDGsのゴール12「つくる責任、つかう責任」を軸に、再生燃料の製造を通して、再資源化、省資源化の推進を行っており、資源の枯渇や地球温暖化問題が叫ばれている昨今、当社の事業は持続可能な社会の実現の為に不可欠と考えます。

当社の強みは、他社で処理が困難といわれているさまざまな油性廃棄物を、その対象物ごとに最適な処理施設において安心安全にリサイクル燃料に生まれ変わらせることができる知識と技術力です。今後はこの再生燃料をより多くのお客様に活用して頂けるよう、既存のノウハウだけに捉われず、新しいイノベーションの創出が必要と考えております。今後、これまで積み重ねてきた知識や技術力にフレキシブルな創造力を加え、また近隣大学との産学連携等により新たな知見を取り入れる事で、多様な顧客ニーズに答えるべく、製品開発を加速化させてまいります。また、既存設備の改善や生産体制、業務フローの見直しを図ることで処理数量の拡大と稼働率の向上、再資源化率の向上に積極的に取り組んでまいります。更には、より一層環境に優しい企業として成長するべく、再生可能エネルギーへの完全転換と自給自足の事業運営を視野に、設備投資計画を推進してまいります。

50期中、当社は製造している再生燃料にネーミングとロゴをつけることを決め、51期のスタートと共にステークホルダーの皆様へ公開をいたしました。廃棄物処理から「資源循環」へ。中間処理から「ものづくり」へ。廃棄物の可能性を信じつつ、探求を続けることで当社の製品と他社製品との差別化を図ります。そして、これまで以上に皆様へ選ばれる企業となるよう、引き続き主体性をもち、おもてなしの心を忘れず日々の業務に邁進してまいります。今後とも、ステークホルダー皆さまのご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

専務取締役兼 COO 古澤 孝之



Third Party

セメント産業は動脈産業として、社会インフラ整備の基礎資材であるセメントや関連製品を社会に提供する一方、静脈産業として各産業から排出される廃棄物や副産物をセメント原料や熱エネルギーとして役立てており、2023年度実績で業界平均でセメント1tあたり480kgの発生量を削減しました。また自治体の下水処理場から発生する下水汚泥や家庭ごみの焼却場で発生する灰も受け入れるほか、東日本大震災以降、激甚災害の折に発生した廃棄物を引き受けることで被災地の早急な復旧・復興に協力させていただいております。

この廃棄物・副産物の利用量において当社グループは業界トップクラスであり、昨年実績は540kgでした。関係する処理技術や諸設備は今日まで当社セメントリサイクルに携わる多くの皆様よりお知恵やお力をいただきながら共に築き上げた財産にほかならず、この場をお借りしまして深く御礼申し上げます。

この度の当社中期経営計画においては「SOCVision2035」を打ち出し、2035年の「ありたい姿」を掲げました。時代の要請に応えられる「環境解決企業」として循環型社会・脱炭素社会実現へ向けた姿勢を明確にしています。脱炭素社会への貢献という重要課題に対し、当社は2050年カーボンニュートラルへの達成に向けて長期ビジョン「SOCN2050」なる施策を掲げ、あらゆる角度から挑戦を進めているところです。

TOAシプル様との関係は古くセメントリサイクルのあけぼのの時期に遡りますが、当社関東の拠点である栃木工場にて化石燃料代替としてBWF（Biomass Waste Fuel）を使用開始したのが最初です。その後高知工場等へ利用の輪が広がり、現在では当社グループ全体で年間15,000t超利用しています。また、TOAシプル様が製造する廃棄物由来の油性液状物が混合された再生混合燃料（Mixible Oil Fuel）については3年前より栃木工場内に専用タンクを設け使用をしています。

TOAシプル様は20年以上のお付き合いがある重要なパートナーです。目下、当社はSOCN2050のKPIとして「2030年石炭代替率50%達成」を掲げますが、燃料製造に関し用途に応じてカロリーやハンドリングを調整可能な独自の技術を強みとしてお持ちになるTOAシプル様は我々にとって非常に心強い存在です。今後もTOAシプル様が豊富な経験知を基に燃料製造事業を拡大し、更にご活躍の場を拡げていくとともに、循環型社会・脱炭素社会の実現の担い手として当社と共に歩みを進めていくことができると心より祈念する次第です。

住友大阪セメント株式会社
常務執行役員 細田 啓介様

※50期は2023年度（2023年5月～2024年4月）を指します。

戦略的優先課題(環境汚染のコントロール・脱炭素社会の創造)

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	2021年度	2022年度	2023年度	評価	ありたい姿
3気候変動に具体的な対策を 6安全な水とトイレを世界中に 12つぎは豊かにならずに 3.9/6.3/(6.4)/(6.6) 12.4/(14.3)/(15.2)	大気水質などの影響管理	環境汚染の撲滅	自社基準の運用による法令基準の遵守 (法令基準の80%を閾値としてモニタリング)	自社基準値クリア	自社基準値クリア	自社基準値クリア	○	継続
3気候変動に具体的な対策を 12つぎは豊かにならずに 13気候変動に具体的な対策を 3.9/12.4/13.1 (14.3)/(15.2)	エコドライブの推進	社用車(営業・業務)のCO ₂ 削減	n/a	営業者→ガソリンエンジン車両7台 運輸車→低公害車:83.5%	EV1台 PHEV2台導入	EV1台 PHEV3台導入 低公害車1台導入	○	営業車→ガソリンエンジン車両0台 運輸車→低公害車:100%
7再生可能エネルギーを普及させる 7.2	再エネ	再エネ使用	再エネ使用	0%	0%	100% (内自社での太陽光発電8%)	○	再エネ電力利用:100%
3気候変動に具体的な対策を 12つぎは豊かにならずに 13気候変動に具体的な対策を 3.9/12.4 13.1/(14.3)/(15.2)	SCOPE1における二酸化炭素削減に寄与する取り組み推進	CO ₂ 排出量	CO ₂ 排出量	12,263 (t-CO ₂ /年)	12,377 (t-CO ₂ /年)	10,275 (t-CO ₂ /年)	○	焼却による 自社排出CO ₂ :42%削減
3気候変動に具体的な対策を 12つぎは豊かにならずに 13気候変動に具体的な対策を 3.9/12.4 13.1/(14.3)/(15.2)	SCOPE2における二酸化炭素削減に寄与する取り組み推進	CO ₂ 排出量	CO ₂ 排出量	1,190 (t-CO ₂ /年)	1,019 (t-CO ₂ /年)	0t-CO ₂ /年 (ロケーション基準 684t-CO ₂ /年)	○	電力使用による 自社排出CO ₂ :42%削減
3気候変動に具体的な対策を 12つぎは豊かにならずに 13気候変動に具体的な対策を 3.9/12.4 13.1/(14.3)/(15.2)	リサイクル燃料の供給に寄与	CO ₂ 削減量 (BWF・ROF・MOFを 石炭・石油代替燃料としてカウント)	CO ₂ 排出量	95,736 (t-CO ₂ /年)	104,037 (t-CO ₂ /年)	113,650 (t-CO ₂ /年)	○	2025年度 226,701 (t-CO ₂) 削減

2023年度の実績と今後の方針 環境汚染のコントロール

当社では事業活動を行う際に発生する大気や排水における水質など、定期的に監視、測定を行いコントロールしています。また法令基準の80%で自社基準を設け、より厳しく監視し基準を超えないように管理しています。大気水質の分析結果については、工場部門・業務管理課にてダブルチェックを行い、徹底した管理体制を整えています。今期においても自社基準を満たしており、周辺環境に影響を与えずに事業活動を行っております。今後も継続的に自社基準を満たせるよう監視・測定を行い、周辺環境を守っていきます。



EV・PHEV車の導入促進



大気水質の管理

(例) 焼却炉:2ヵ月毎測定(年6回)

項目	実施頻度	数値	自社基準値	排出基準値
ばいじん(g/m ³ N)	年2回	0.004	0.20	0.25
硫黄酸化物排出量(m ³ N/h)	年2回	0.009	0.06	0.08
窒素酸化物(ppm)	年2回	29	200	250
酸化水素(mg/m ³ N)	年2回	7	560	700
CO(%)	年2回	—	—	—
ダイオキシン類(ng-TEQ/m ³ N)	年2回	0.00083	2.4	3.0
水銀(μg/m ³)	年2回	0.04	40	50

※各測定項目の数値は分析測定会社に測定してもらった結果を開示しています。
※数値は直近に計測したものです。尚、測定機会2回とも基準値に対して「適合」を得ています。
※焼却炉のスペックによって、基準値が異なりますが既存の焼却炉、新規焼却炉ともに「適合」を得ています。
※水銀については、4ヵ月毎測定(年3回)しており、いずれも「適合」を得ています。

※50期は2023年度(2023年5月～2024年4月)を指します。

脱炭素社会の創造

当社の事業活動でリサイクル燃料の供給により、CO₂排出量の削減に寄与しています。再生重油はA重油と比較した場合に4%、C重油と比較した場合15%のCO₂排出削減となります。当社独自の再生固形燃料BWF、エマルジョン燃料を石炭の代替燃料として使用することで、BWFでは石炭使用時よりも18%、エマルジョン燃料では21%のCO₂排出量を削減できます。(※)
また焼却炉では化石燃料由来の焼却燃料を使用しないため、CO₂の排出削減に寄与しています。
2023年は再生重油、BWF、エマルジョン燃料を石炭・石油代替燃料としてカウントした場合、113,375tのCO₂削減することができました。今後も出荷数量を増やしていくことでCO₂排出削減に貢献し、脱炭素社会の実現を目指します。

※環境省CO₂排出係数対比による



再生燃料の供給

エリア	処理工程	算定対象範囲	単位	2020年度	2022年度	2023年度	2020年度固有値 (t-CO ₂ /1000t)	2022年度固有値 (t-CO ₂ /1000t)	2023年度固有値 (t-CO ₂ /1000t)	年間削減量 (t-CO ₂)
千葉工場	油水分離	電力使用量	(Mwh)	957	1,099	0	37	44	5	32
			(t-CO ₂)	483	581	0				
		天然ガス使用料	(m ³)	26,381	15,360	32,474				
			(t-CO ₂)	59	34	64				
		処理量	(t)	14,651	13,991	13,506				
	混合	電力使用	(Mwh)	0	166	0	0	27	0	0
			(t-CO ₂)	0	88	0				
		処理量	(t)	0	3,236	5,303				
	セメント固化	電力使用量	(Mwh)	311	250	0	19	16	9	10
			(t-CO ₂)	157	132	0				
		軽油使用量	(KL)	63	73	70				
			(t-CO ₂)	162	184	184				
		処理量	(t)	16,641	19,973	20,023				
	焼却 (非エネルギー 起源除く)	電力使用量	(Mwh)	319	366	0	273	283	327	54
			(t-CO ₂)	161	194	0				
		仕入燃料使用量	(t)	1,081	1,073	1,126				
			(t-CO ₂)	2,843	2,821	2,974				
		処理量	(t)	10,996	10,649	9,101				
	廃油の焼却 (非エネルギー 起源含む)	エネルギー起源					273	283	327	
		非エネルギー起源CO2	2.93	1	1	1	2,920	2,920	2,930	
		非エネルギー起源CH4	0.0000040	25	25	28	0.014	0.014	0.112	
		非エネルギー起源N2O	0.000062	298	295	265	2.92	2.92	16.430	
		合計					3196.1	3206.0	3,273.3	
	廃プラスチック の焼却 (非エネルギー 起源含む)	エネルギー起源					273	283	327	
		非エネルギー起源CO2	2.56	1	1	1	2,550	2,550	2,560	
		非エネルギー起源CH4	0.0000080	25	25	28	0	0	0.224	
非エネルギー起源N2O		0.000015	298	298	265	50.66	50.66	3.975		
合計					2873.9	2883.8	2,890.9			
破碎	処理量	(t)	0	0	0	0	0	0	0	
		(t-CO ₂)	0	0	0					
広域	収入運搬	軽油使用量	(KL)	240	226	223	0.18	0.18	0.18	0
			(t-CO ₂)	620	593	585				
		処理量	(km)	1,314,678	1,244,244	1,248,524				

エネルギー 消費量(燃料)	対象	開示事項		単位	2021年度	2022年度	2023年度
	株式会社TOAシブル	非再生可能エネルギー源に由来する 総燃料消費量	ガソリン	ℓ	18,371	24,063	21,550
			軽油	ℓ	298,348	299,211	293,476
			都市ガス	m³	35,754	15,360	32,474
		エネルギー原単位 (廃棄物処理1tあたりのエネルギー使用量)	ガソリン	ℓ/t	0.41	0.50	0.45
			軽油	ℓ/t	6.64	6.25	6.12
			都市ガス	m³/t	0.80	0.32	0.68
		エネルギー総消費量(発熱量ベース)		GJ	13,485	12,801	13,264

エネルギー 消費量(電気) kwh	対象	開示事項		報告対象期間 単位	2021年度	2022年度	2023年度
	株式会社TOAシブル	電気消費量		kwh	1,749,985	1,936,261	1,738,023
		発電量	太陽光発電	kwh	0	23,075	148,434
		エネルギー原単位(廃棄物処理1tあたりの電力使用量)		kwh/t	38.96	40.47	36.26

GHG排出量	対象	報告対象期間/開示事項	2021年度	2022年度	2023年度	単位
	株式会社TOAシブル	GHG Scope1 総量(①+②)+GHG Scope2(マーケット基準)総量	13,453	13,396	10,275	t-CO ₂
		GHG Scope1 総量(①+②)+GHG Scope2(ロケーション基準)総量	13,023	13,216	11,030	t-CO ₂
		①購入した燃料の燃焼に伴うGHG排出量	4,539	3,683	3,855	t-CO ₂
		②非エネルギー起源GHG排出量	7,724	8,694	6,420	t-CO ₂
		GHG Scope2総量	マーケット基準			
			1,190	1,019	0	t-CO ₂
			ロケーション基準			
			759	838	754	t-CO ₂
		CO ₂ 原単位排出量(廃棄物処理量1tあたりの二酸化炭素排出量) GHG Scope2(マーケット基準)	0.026	0.021	0	t-CO ₂ /t
		CO ₂ 原単位排出量(廃棄物処理量1tあたりの二酸化炭素排出量) GHG Scope2(ロケーション基準)	0.017	0.018	0.016	t-CO ₂ /t

※算定範囲は株式会社TOAシブルの全事業拠点としています。

※GJ=ギガジュール

※ジュールの換算出典:環境省「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」

※排出係数の出典:環境省「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」

※原単位排出量(処理量あたりの排出量及び売上あたりの排出量)はすべて株式会社TOAシブル全体の数値となっています。

※50期は2023年度(2023年5月～2024年4月)を指します。

戦略的優先課題 水資源の管理(守る・保守・保全)・生物多様性への貢献

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシプルの具体的なコミットメント	TOAシプルのコミットメントの解説	活用する数値	2021年度	2022年度	2023年度	評価	ありたい姿
 15.1	水資源の保全	水資源の有効利用	使用量	29.782m ³	33.753m ³	25.68m ³	×	使用量削減
	生態系の保全	保全活動	実施件数	—	—	計画中	×	2030年までに自然共生サイト登録

2023年度の実績と今後の方針

水資源の管理(守る・保守・保全)・生物多様性への貢献

社内で利用している地下水や水道水については、全て各部門担当者が毎月使用量を管理しております。今期、特に水を使用する焼却工場において、冷却水の濃縮管理を見直し、設定の変更に取り掛かるなど使用量の削減に具体的に取り組んでおります。今後、雨水の有効活用や現状の設備の変更等も視野に入れつつ、限りある水を効率的に利用し適切に排水することで環境負荷低減に取り組んでまいります。

生物多様性への貢献

水辺を美しく保つための河川の清掃活動や、定期調査、地域の農工業の水源といわれている印旛沼の清掃活動に参加しています。今期、環境省が主導する「生物多様性のための30by30アライアンス」に参画いたしました。49期より整備を進めていたファームにはビオトープを設置し、年間スケジュールを作成してモニタリングや保全活動を実施します。また、49期の終わりからミツバチの養蜂を開始しています。ミツバチを守り育てることで、健全な生態系を維持してまいります。2030年までに、生物多様性の保全が図られている区域となる「自然共生サイト」の認定取得を目指し活動を進めてまいります。

30by30アライアンス(環境省)への参加

2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させるというゴールに向けて、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保存しようとする目標に賛同しています。来期以降より具体的なスケジュールを策定し、専門家にご指導をいただきながら、生態系調査活動から進めていきます。



データ元	単位	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	合計
2021年水消費量	m ³	1,506	1,592	1,732	2,327	4,758	3,038	3,571	3,030	1,419	478	3,426	2,905	29,782
2022年水消費量	m ³	2,749	3,018	3,288	3,426	3,097	2,779	2,953	2,433	2,168	2,122	2,969	2,751	33,753
2023年水消費量	m ³	2,351	2,648	3,010	2,058	2,861	2,611	2,222	2,596	1,017	457	1,772	2,083	25,686

全国オイルリサイクル協同組合「森とアースのエコプロジェクト」賛同について

当社の加盟している全国オイルリサイクル協同組合では、お客様のご賛同のもと、各社が廃油リサイクル事業の収益の一部を抛出し、脱炭素社会の実現に向けて先進的に取り組む全国の自治体と連携して植林等の森林保全活動を推進しました。当社含む15社が推進チームとしてプロジェクトを進めております。2050年に向けた脱炭素社会の実現を目指して、廃油リサイクル等を通じた循環型社会構築への貢献に加えて、本プロジェクトを通じた森林保全活動の支援や、カーボン・オフセットへの取り組みにより、脱炭素社会構築への貢献に努めています。



令和5年度は、以下の6都市と連携し、森林保全活動を実施しました。

また、こうした森づくりの結果として生じるCO2吸収量を活用して、廃油リサイクル事業において排出されるCO2のオフセットにも取り組んでいます。

Do Your Part!
～国立公園・世界自然遺産
カーボン・オフセットキャンペーン～に賛同

当社が所属している「森とアースへのECOプロジェクト推進チーム」は、脱炭素社会実現のための取り組みの一環として、国立公園カーボン・オフセットキャンペーンに協賛し、国立公園内にあるビジターセンターで使用されるエネルギー等のカーボン・オフセットの取り組みを支援しています。

※国立公園の豊かな自然にふれあいながら、環境に負荷をかけないよう、また自然と共生する社会の実現に向けた行動を喚起するためのキャンペーンです。

国立公園内にあるビジターセンターで使用されるエネルギーや国立公園内の観光船、マイカー規制期間中の通行車両等から排出されるCO2(=カーボン)を、国立公園周辺等での省エネ・再エネ設備導入による削減プロジェクトや森林管理プロジェクトで減らしたCO2で埋め合わせ(=カーボン・オフセット)をしています

※50期は2023年度(2023年5月～2024年4月)を指します。

【CO2の発生】

国立公園内ビジターセンター
国立公園内観光船
マイカー規制区間を通行するクルマ等、使用エネルギー

カーボン・オフセット

【CO2の相殺】

国立公園周辺等で創出されたクレジット



気候変動に伴う異常気象や、生態系の変化が私たち人間の生活を脅かし始めています。企業にはこれまで以上に地球環境に優しい活動が求められていると感じています。

当社では50期SBT認定を取得しました。2030年までにscope 1,2における自社排出CO₂を42%削減することを目指しています。高い目標ではありますが、再生可能エネルギー使用の促進や、エコドライブの実施、リモートワークの活用等、個人としてできることを主体的に考え実施してまいります。また、今期より当社は水資源の管理と生態系保全について課題の項目を増やして活動を進めています。30by30にも参画いたしました。今後、生物とそれを取り巻く水や空気の定期的調査により、今まで以上に環境に配慮した企業活動の推進をしていきます。

お客様との対話の中で、CO₂排出量やその削減方法について聞かれることが多くなっています。当社の製造工程で、また当社の製造する再生燃料の使用によりどれだけGHGの排出量を抑制できるのかについて、来期以降、自社内で算定ができる仕組みができあがるので、お客様に適切で具体的な情報開示をしていければと考えています。それと同時に、サステナビリティに関する企業としての取組みの重要性についてもっと多くの方々に知って頂く機会を提供していきたいです。

個人としては、SDGs推進委員会に所属していることもあり、当社の環境に配慮した活動とSDGsのゴールを結びつけて考えるようにしています。またその輪が社内で広がるよう、皆が自分事と捉えることができるよう、これからも周囲を巻き込む活動を提案し、推進していきます。

営業本部 環境ソリューション事業準備室
課長 浅井 真弓



千葉県環境保全協議会は、県民に向け環境保全に関する知識と技術の普及啓蒙活動や、工場、事業場における公害防止管理の取組み支援や研修を行っております。千葉県は、2021年に「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言」を行いました。昨今の気候変動の影響による自然災害等を鑑みますと、地球環境に対する強い危機意識を企業と県民が共有し「オール千葉」で脱炭素社会を実現することが急務となっており、当協議会も微力ながら地域社会と協調し、日々会員企業の環境保全活動をサポートしております。

TOAシブル様には、製造業を中心とした排出事業者が多い当協議会の中で、数少ない処理業者としての視点から環境保全や資源循環に関するさまざまな意見や提案をいただいております。

また、今期の習志野・八千代部会長として、積極的に工場視察を受け入れてくださり、数多くの会員企業が訪れています。視察では、本業だけでなく太陽光パネルの設置、CO₂削減、SDGsの実装やCSR活動など、地域・社会貢献の取組み等を紹介されていることから、充実した内容で参加した会員企業から、大変好評を得ております。

今後サステナビリティに関する取組みがさらに社会全体で重要視されていく中で、TOAシブル様の活動がその地域に浸透していくことは、会社の信用を深めてだけでなく、循環型社会の構築や豊かな自然環境と大気・水環境の保全等、当協議会の目指すべき方向性とまさに合致していると確信しております。これからも、環境負荷の低減に努め、地域・社会貢献に邁進されることを期待しております。

千葉県環境保全協議会
執行役員理事 事務局長 佐々木 真司様

戦略的優先課題 共に生きるプロジェクト・社会貢献活動の推進

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	2021年度	2022年度	2023年度	評価	ありたい姿
 11.5	CSRの推進	避難訓練の実施	避難訓練実施回数	年2回	年4回	年5回	△	維持継続
 3.3/3.8/17.16		エコキャップ活動によるポリオワクチン活動	ポリオワクチン提供人数	73人	112人	218.5人	○	200人
 14.1		近隣美化活動	参加人数	90人	83人	103人	○	維持継続
 3.4		献血活動	参加人数	44人	89人	124人 ※近隣企業含	○	維持継続
 4.7/12.8		SDGs普及活動	実施件数	N/A	社外向け3件 社内向け1件	社外向け9件 社内向け2件	○	10件
 17.16		スポーツ振興支援の実施 支援に関わった団体 スポーツ振興	N/A スポーツ振興支援の実施 支援に関わった団体	N/A	協賛企画	ユース支援 開始	—	さらなる連携支援
 17.16		寄付による 社会課題の解決	N/A 寄付活動の実施	N/A	継続	継続	—	継続

※50期は2023年度（2023年5月～2024年4月）を指します。



千葉ジェッツふなばしユース支援

スポーツ振興支援を目的とし、「千葉ジェッツふなばし」のオフィシャルパートナーをしています。今期は、特にユースチームのスポンサーとして次世代の選手への支援を行いました。



近隣美化活動

年に6回、全社員参加型の近隣美化活動を実施しています。清掃箇所は定期的に見直しを図っており、今期からは本社から少し離れた場所にある、業務車庫付近の清掃を開始しました。今後も、社員全員で地球を守る活動を続けていきます。



献血活動

年に2回、社内に献血バスを呼び献血活動を行っています。前期と同様、近隣企業の皆さまにもご賛同いただき、今期、千葉県献血センターより血液センター所長感謝状をいただくことが決まりました。命をつなぐボランティアを今後とも継続してまいります。



電解水素水導入

健康増進を目的とし、電解水素水（アルカリイオン水）を導入しました。この水は体内のストレスを低減させ胃腸症状改善に効果的といわれています。社員の健康を守ることは企業の努めです。「TOAは永久に健康企業」を目指します。



福利厚生倶楽部の導入

福利厚生代行サービス「福利厚生倶楽部」を導入しました。社員が余暇を楽しむためのコンテンツや、健康増進・ライフサポートメニューなど、多岐に渡るサービスの活用により、全社員が仕事とプライベートのバランスがとれるよう会社としてサポートしています。



作業着・ジャンパーリニューアル

工場員やドライバーが着用している作業着を、サステナブル素材（リサイクル繊維素材使用）にモデルチェンジしました。また、使わなくなった作業服は、「BRING」という回収システムを利用しリサイクルしています。



出張カードゲーム

当社の近隣企業や団体様、地域の学校等を中心に、SDGsの普及と理解を目的とし、環境教育、主に「2030SDGsカードゲーム」を実施しています。SDGsの世界観を一人でも多くの方に知っていただき、共感してもらうことが、持続可能な社会の形成に必要です。来期以降も取組みを加速させてまいります。



環境授業

近隣小学校向けに環境授業を実施しました。リサイクルについて学習する小学校4年生を対象に、ゲームをしながら、ごみの分別の大切さとその理由を学習する機会を提供しました。来期も、ESD（持続可能な開発のための教育）に積極的に取り組めます。



エコキャップ運動

ペットボトルキャップを回収し、その対価で世界の子どもたちのワクチンを提供するという「エコキャップ活動」をしています。今期は、218.5人分のワクチン提供に貢献しました。10社以上の協力企業様にご理解ご支援をいただいております。これからも共に活動を続けてまいります。



ハーブの栽培

敷地内ファームで新たにハーブを7種類育てました。その中でも、できあがったレモンバウムを乾燥させ、全社員に配布しました。疲労回復や不眠改善、自律神経を整えるなど、生活にハーブを取り入れることが健康的な暮らしにつながるといわれています。



BCP対策

感染症の蔓延や自然災害に備えて、防災倉庫を設置し、社員だけでなく近隣住民の方々の備蓄、救急用品や避難機材を保管しています。来期はハザードマップの作成と設備の充実を進めてまいります。



社員教育 TOAアカデミー

定期的な社内研修を実施しています。サステナビリティや営業向け研修、コンプライアンスに関わる事柄等、プログラムは多岐に渡ります。社員個々のスキルアップにより、会社全体のレベルアップを図ります。

※50期は2023年度（2023年5月～2024年4月）を指します。



当社は、この数年で八千代市や千葉県から表彰をいただく機会が増えました。それは、ステークホルダーの皆様のご理解とご協力のおかげであり、それと同時に地域社会に根差した活動に対して、推進力があるからだと自負しています。

私が所属しているSDGs推進委員会では、さまざまなCSR活動を実施しています。献血活動は今期で3年目になりますが、更に活動を拡大させようと近隣企業様に声かけをしています。結果、前期より40人ほど多く血液を集めることができました。エコキャップ活動においては、「2030年までに200人分のワクチンを！」という目標を今期で達成することができました。これも、活動に賛同してくださるすべての社員とご家族の皆様や、近隣企業や協力会社の皆様のおかげです。

SDGsのゴール目標は一人では達成できませんが、社員全員で取り組むことで、持続可能な社会を生み出すことができます。当社は、社員一人ひとりがそれを意識できるよう、すべてのCSR活動にすべての社員が関わる仕組みとなっています。廃棄物の適切な処理を行うことでSDGsの達成につながるなど、CSR活動だけでなく、普段の業務がSDGsにつながっているということを社員に認識してもらうとより仕事に誇りをもつことができますし、エンゲージメントの向上にも繋がると思いますので、そのような意識づけも行っていける仕組みが確立できれば、よりよいのではないかと考えています。私もサステナビリティ研修を受講し、当社のSDGsとは、廃棄物とサステナビリティの関連性についてなど、新たに考えるようになりました。私自身、当社に委員会が発足して以来、委員メンバーとして所属し近隣美化活動や献血の全体の仕切りなどの活動を続けていますが、同じことの繰り返しではなく、日々新しい活動ができないかと主体性を持って考えるようにしています。来期はSDGs推進委員会が主体となってスポーツの推進や、TOAシブルならではのCSR活動も新たに創っていきたいと考えています。これからフレキシブルな発想で、おもてなしの心を忘れず、ステークホルダーの皆様と共に成長していく企業の一員として活動続けてまいります。

営業本部・営業二部
リサイクル販売課 グループリーダー 橋本 光永



千葉大学では、環境ISO学生委員会の学生が内部監査などの業務や大学のサステナビリティレポート(環境報告書)の編集作成に携わっています。そのような私たちの立場から、TOAシブルの「社会貢献活動」に関する取組み(報告書48～50ページ)について第三者意見を述べさせていただきます。

まず、TOAシブルは美化活動や環境教育などのSDGsに関する取組みを積極的に行っており、それらを通じた地域との結びつきを非常に大切にしている点が一際目を引きました。エコキャップ、近隣美化、献血などありたい姿を設定し、それを達成している点が素晴らしいと思います。SDGs 普及活動も年間10件という目標を達成されています。これは出張カードゲームや環境教育の実施を指していると思いますが、10件の内容がわからないので説明を加えるとよいと思いました。報告書の67ページには、千葉ジェッツふなばしとコラボして子供向けの SDGs すころくを製作したという記事もありました。独自開発教材でのとりくみを進めるとさらに素晴らしいと思います。さらに、目標を達成している項目について、今後維持継続や更なる発展を目指していくうえで、具体的にどのような取組みを行っていくのかという点が明記されているとお良いのではないかと思います。

本報告書により、TOA シブルの「地域社会との共存共栄」に関する取組みがさらに改善され、地域に根差した企業として一層のご発展を遂げていくことを期待しております。

NPO 法人千葉大学環境 ISO 学生委員会
井脇淳士様・金井栄央様 倉阪秀史教授 監修

豊かな未来を創る組織の実現

安全衛生方針

当社は、安全衛生活動を企業の絶対的責任と捉え、労働災害・事故の防止を企業の存続と発展にとっての最重要課題とする。安全で健康な職場形成に努め、全ての従業員および地域社会の安全と健康を最優先するとともに安全衛生管理を徹底し、「安全第一企業」を目指すことで業界の魅力向上に貢献する。

私たちは、以下の項目を重点テーマとして安全衛生活動を行います。

- 1.安全衛生に係る関係法令及び自主基準を遵守し、従業員の安全と健康を確保します。
- 2.労働災害ゼロを目指し、全従業員参加による安全衛生活動を実施し、より快適な職場作りを推進します。
- 3.従業員の健康障がいやメンタルヘルスによる健康被害を防止するため、衛生管理体制の充実を図り、健康意識の向上を目指します。
- 4.従業員とのコミュニケーションを図り、社員教育及び社内広報活動を通じて、安全衛生意識の高揚に努めます。

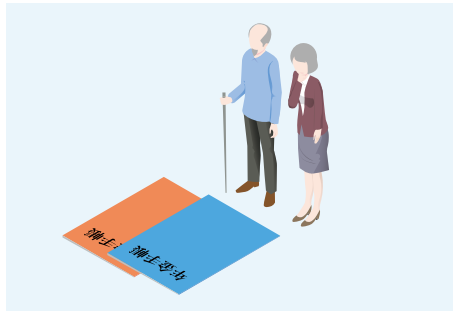
この安全衛生方針は全従業員に周知するとともに、外部からの要求に応じて公表いたします。

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	2021年度	2022年度	2023年度	評価	ありたい姿
 3.4	健康経営	生活習慣病低下	生活習慣病発生件数	0件	0件	0件	○	取り組みの強化
		メンタルヘルス不調休務者数	メンタルヘルス不調休務者数	1人	0人	0人	○	0件を維持
 3.4	労働安全衛生	事故怪我の件数低減	度数率・強度率	0件	0件	0件	○	0件を維持
 5.1/8.5/8.6/10.3	ダイバーシティ推進	女性管理職の増員 (課長以上※役員除く)	管理職における女性の割合	0%	0%	0%	×	5%
		女性社員の増員	女性社員の割合	全社員合計16%	・ 営業本部全体 21名(全社員119人中) ・ 女性5名 23.8% ・ 業務本部2% 環境作りは2023年度から開始 ・ 経営管理本部 33.3%	・ 営業本部全体 28名 ・ 女性9名 32.1% ・ 業務本部2% 環境作りは継続的に実施 ・ 経営管理本部 50.0%	○	25%

※50期は2023年度(2023年5月～2024年4月)を指します。

ワークライフバランス

より柔軟な勤務制度の導入を通じて、社員が健康を維持し、働きがいを持てる職場環境を整備することを目的とし、以下制度の運用を開始しております。



65歳定年延長

働く意欲がある社員に対して就業機会を提供できるよう、これまで60歳であった定年を65歳まで延長しました。延長により不利益が発生しないよう対応を行っています。



フレックスタイム制の導入

家族の看護等で、定型での終業時間では不都合がある社員を対象に、フレックスタイム制を導入しています。



働きやすい清潔で安全な職場環境づくり

事務棟ではフリーアドレスを実施。コミュニケーションの活性化や業務の効率化、ペーパレス化の促進に繋がっています。また社内緑化を推進し、ストレスの軽減だけでなく、社員個々の生産性や創造性の向上を計っています。



リモートワークの推奨

自然災害や感染症の蔓延等、働く環境の急激な変化の中で、社員個々の働く意欲に応え、その能力を遺憾なく発揮できるよう、柔軟に対応しています。



ボランティア休暇の導入

地域・社会貢献活動、自然・環境保護活動、災害復興支援活動などに積極的に参加し、社員の人的成長や実務能力、コミュニケーション力等の向上を推進しています。



完全週休2日制の導入

産業廃棄物関連業界では導入が遅れている完全週休2日制を取り入れ、部門間で不均等であった年間労働時間の統一を行います。



時間外労働の削減
①ノー残業デーの設定

毎週水曜日をノー残業デーに設定し、朝礼や社内放送で啓蒙活動を行っています。仕事の優先順位や段取りを事前に考えるなど、会社で効率的に働くための工夫をする社員が増えています。



時間外労働の削減
②所定外労働の事前申請制

残業や休日出勤は、事前申請制としています。これにより役職者が仕事量を把握、調整することができます。またパソコンに「シャットダウンシステム」を導入することで、無駄な残業や出勤を省くことができます。



一時間単位の有給休暇取得制度導入

通院や介護、学校行事への参加などにあわせて、より柔軟に休暇を取れるよう時間単位での有給休暇の取得が可能です。

	48期	49期	50期
①労働者の1ヵ月当たりの所定内労働時間 ※事業所の就業規則で定められた始業時間と終業時間との間の実労働時間数	160:40時間/月	160:40時間/月	160:40時間/月
②労働者の1ヵ月当たりの平均所定外労働時間 ※早出、残業、臨時の呼出、休日出勤等の実労働時間数	28:35時間/月	33:55時間/月	35:58時間/月
③労働者の1ヵ月当たりの実際の労働時間 ①+②-（有給休暇を消化した時間）	181:45時間/月	188:35時間/月	190:38時間/月
④労働者の1年の実際の労働時間	2181:00時間/年	2263:00時間/年	2288:00時間/年

※50期は2023年度（2023年5月～2024年4月）を指します。

ダイバーシティインクルージョン・離職率の低減

TOAシブルでは、多様な人財や価値観を取り入れ、女性の活躍の推進をはじめ、ダイバーシティの推進に取り組んでいます。社員一人ひとりの価値観を尊重し、能力を最大限発揮できる環境づくりに努めています。具体的には、定型の終業時刻では不都合のある社員を対象にフレックスタイム制を導入しました。また、通院や介護、学校行事への参加などに合わせてより柔軟に休暇を取れるよう、1時間単位での有給休暇取得を可能にしました。そして、性別関係なく育児休業とその後の育児と仕事が両立できるような仕組みを確立し、積極的な育児休業の取得を推奨しています。

近年では持続可能な企業を目指し、積極的に人材を採用しております。女性社員の割合も年々増加しております。

また、今期新たな取組みとして、福利厚生代行サービス「福利厚生倶楽部」を導入いたしました。生活の中で利用する飲食店や旅行のチケットの取得や、自己学習のためのセミナーを受けることができ、あらゆる面から社員をサポートしています。

また、来期からは新卒採用をスタートさせ、それに伴い安心して働き続けられるような研修制度も構築しております。多様性を尊重し、互いに助け合える環境を創ってまいります。

各段階における仕事と育児の支援制度

結婚 妊娠中 出産 育児休業 育児と仕事の両立					
勤務制度	結婚休暇	補正健康管理措置 短時間勤務制度 フレックスタイム制度	産前休暇(6週間) 産後休暇(8週間)	育児休業(1歳まで) ※～2歳まで延長可	・フレックスタイム制度 ・時間外労働の制限 ・時間外労働の制限 ・所定外労働の制限 ・深夜業の制限 ・子の看護休暇
	在宅勤務制度	在宅勤務制度			在宅勤務制度
経済支援		傷病手当金	出産育児一時金	育児休業給付金	
			出産手当金		
			家族手当※扶養者		
			出産祝金		



男性社員の育児休業取得推進

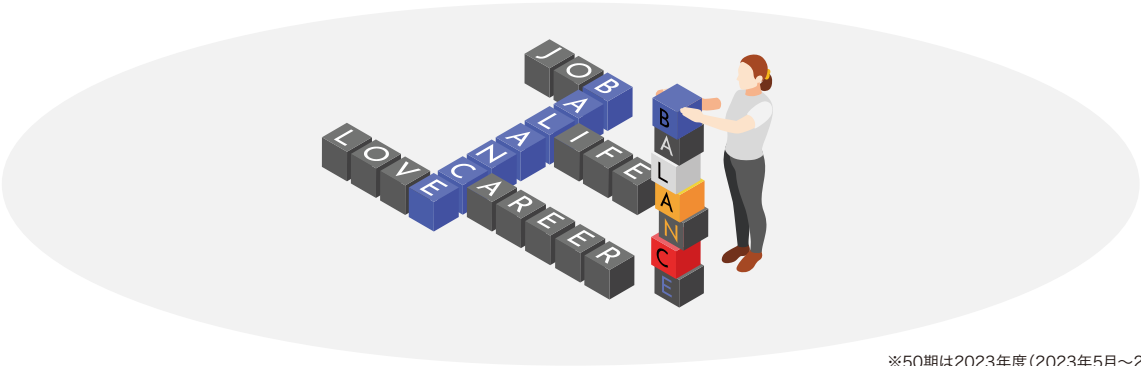


在宅勤務制度



女性活躍の推進

	単位	2021年度	2022年度	2023年度
社内育児・介護働き方制度 利用者数	全体	人	該当なし	該当なし
	男性	人	該当なし	該当なし
	女性	人	該当なし	該当なし
復職率		%	該当なし	該当なし
定着率		%	該当なし	該当なし



※50期は2023年度(2023年5月～2024年4月)を指します。

人材育成による事業貢献度の向上

当社では、社内外での研修や業務に関わる資格取得支援など、社員がより活躍できるような環境づくりを目指しています。社内では業務部の活動に関する講習会、事業活動の理解を深めるための座学研修「TOAアカデミー」など、定期的な勉強会を実施しています。今後は社内で一貫した教育システムを構築し、研修や資格取得の補助制度をより充実させるなど、人材育成のための環境づくりを推進してまいります。

社内・社外研修の活用 資格取得支援

項目	人数
1級電気工事施工管理技士	2
2級ガソリン自動車整備士	1
CAD利用技術者1級	1
ICTプロフィシエンシー検定協会主催 P検3級	1
ISO 9001:2015 内部監査員養成1日研修コース	2
ISO14001:2015内部監査員養成研修	1
PCB廃棄物の収集運搬業作業従事者講習会	1
SIDASインソールエキスパート技術認定者	1
SIDASインソールボディアテック ベーシック	1
TOEIC(スコア735)	1
TOEIC720点	1
アーク溶接特別教育修了	19
アシスタント・ブライダル・コーディネーター検定	1
あと施工アンカー打設作業	1
ガス溶接	18
クレーン運転特別教育修了	11
クレーン運転特別教育修了(1t未満)	8
クレーン運転特別教育修了(5t未満)	8
クレデリ運転士	2
けん引自動車第一種免許	2
サービス接遇実務検定2級	1
システム監査技術者	1
シャー作業・紙断裁機 特別教育修了	1
スポーツアロマ セルフアロマトリートメント	1
ダイオキシン類対策に係る特別教育	1
はい1作業	1
はい1作業主任者技能講習	1
はい1作業従事者	8
パソコン技術認定3級	1
ビジネス・キャリア検定 3級マーケティングスペシャリスト	1
ファイナンシャル・プランニング技能士2級	1
フォークリフト運転技能講習修了	66

項目	人数
フルハーネス型安全帯使用作業特別教育修了	2
フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	2
フルハーネス使用作業特別教育修了	41
マイクロソフト認定MOS エクセル	1
マイクロソフト認定MOS ワード	1
マナー・プロトコール検定3級	1
ローラ(学科、実技)	1
ワープロ実務検定3級	1
安全衛生推進者資格	1
安全衛生責任者・職長能力向上教育修了	1
安全管理者選任時研修教育修了	8
移動式クレーン	1
一級ボイラー技士	2
(一社)東京都産業資源循環協会中間処理委員会焼却分科会メンバー	1
一般毒物劇物取扱者	2
運行管理者資格	1
英語検定2級	1
英語検定3級	1
鉛作業主任者技能講習	1
化学設備関係第一種圧力容器取扱作業主任者	1
化学物質管理者養成研修	1
家庭科技術検定食物4級	1
解体工事施工技士	1
乾燥設備作業主任者技能講習修了	1
監督者教育修了	3
監理技術者講習	2
監理技術者資格者証(1級電気工事施工管理技士)	1
管理技術者	1
危険物取扱者 乙種1類	1
危険物取扱者 乙種2類	1
危険物取扱者 乙種3類	3
危険物取扱者 乙種4類	67

項目	人数
危険物取扱者 乙種5類	3
危険物取扱者 乙種6類	3
危険物取扱者 甲種	1
危険物取扱者 丙種	15
危険予知訓練(KYT)教育修了証	1
救命入門コース参加	7
玉掛け作業特別教育修了	16
玉掛技能講習修了	28
玉掛特別教育修了	1
研削といし取替え及び試運転業務	1
研削と石の取替え等の特別教育修了	10
原動機付自転車	1
交通労災管理資格	1
公認会計士	1
甲種防火管理新規講習課程修了	4
行政書士	1
高圧ガス製造保安責任者免状【丙種化学(特別丙化)】	1
高圧ガス販売主任者免状【第一種販売】	1
高所作業車	13
最大荷重1トン未満のフォークリフト特別教育修了証	1
産業ロボット特別教育修了	1
産業廃棄物処理施設技術管理士(破碎、焼却、ダイオキシン類)	1
産業廃棄物焼却施設技術管理士	2
産業廃棄物中間処理施設技術管理士	3
産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会(更新)の収集・運搬課程	1
産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会(更新)の処分課程	1
酸欠特別教育	1
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習修了	29
酸素欠乏・硫化水素危険作業特別教育修了	2
酸素欠乏危険作業主任者技能講習修了	1
酸素欠乏等危険作業特別教育修了	41
事業内検査者研修修了	1



社外セミナー受講



研修受講



資格取得支援制度の充実

従業員一人当たりの研修受講期間

	第48期	第49期	第50期
※男性	10時間	10時間	5.5時間
※女性	10時間	10時間	5.5時間

項目	人数
自動車整備2級ガソリン自動車	1
自動車整備2級ディーゼル自動車	1
自由研削といし特別教育	1
自由研削砥石	4
実用英語技能検定2級	1
社会保険労務士	1
車両系(整地、掘削)	1
車両系建設機械(解体5H)	3
車両系建設機械(解体用)	4
車両系建設機械(解体用)運転	2
車両系建設機械(解体用)第3種特殊	1
車両系建設機械(新解体)	1
車両系建設機械(整地・運搬・積込・掘削)	21
車両系建設機械(整地等)	7
車両系建設機械(整地等)運転	1
車両系建設機械(整地等)運転技能講習修了	1
珠算実務検定2級	2
書道検定3級	1
除染等業務従事者特別教育修了	1
商業経済検定3級	1
小型移動式クレーン	22
小型車両系	1
小型船舶操縦士4級	1
床上操作式クレーン運転技能講習修了	1
消防設備士 乙種6類	1
証券アナリスト 二次試験	1
情報処理技術者試験(ITパスポート試験)	1
情報処理検定3級	1
職長・安全衛生責任者	7
職長・安全衛生責任者教育	1
職長・安全衛生責任者教育 修了証	1
職長・安全衛生責任者教育修了	1

項目	人数
職長・安全衛生責任者教育修了証	1
職長・安全衛生責任者能力向上教育研修	1
職長教育	3
職長教育修了	6
職長等安全衛生教育	1
食品衛生管理者の講習会(添加物)	1
振動工具取扱	1
水質関係第一種公害防止管理者	1
足場の組立て等の業務に係る特別教育、修了証	1
足場の組立て等特別教育修了	1
大型自動車第一種免許	26
大型自動二輪	1
大型特殊自動車第一種免許	1
大型特殊免許	1
第一級陸上特殊無線技士	1
第一種衛生管理者	4
第一種電気工事士	2
第三種陸上特殊無線技士	1
第二種酸素欠乏危険作業主任者技能講習修了	1
第二種電気工事士	2
宅地建物取引士	1
地下タンク等に係る定期点検技術者講習修了	10
中型自動車第一種免許	2
中国語検定4級	1
中小企業診断士 二次試験	1
低圧電気取扱(14Hコース)	1
低圧電気取扱業務に係る特別教育	1
低圧電気取扱特別教育	2
電気工事作業指揮者教育修了	1
電気取扱に係る業務(低圧)	1
電気取扱業務(高圧・特別高圧)特別教育修了証	1
統括安全衛生責任者	1

項目	人数
特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者技能講習修了	1
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習修了	3
特定化学物質等作業主任者技能講習修了	4
特別管理産業廃棄物管理責任者	1
特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習会	1
特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会(新規)収集・運搬課程	1
特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会(新規)処分課程	1
二級ガソリン自動車整備士	1
二級ボイラー技士	5
日商簿記 2級	2
日商簿記3級	2
日本ノルディックウォーキング協会インストラクター	1
日本語ワープロ検定2級	1
博物館に関する科目の単位修得証書	1
秘書技能検定2級	1
秘書技能検定準1級	1
普通救命講習修了	2
普通自動車第一種免許	34
普通自動車第一種免許(準中型)	12
普通自動車第一種免許(中型)	16
普通自動二輪免許	2
粉じん作業特別教育	19
文部科学省認定デジタル技術検定3級	1
簿記検定2級	2
簿記検定3級	2
防火防災管理者講習修了	1
有機溶剤作業主任者技能講習修了	22
有機溶剤取り扱い作業者講習修了	16
食品衛生責任者	2
2030 SDGsファシリテーター	1
総計	855

※50期は2023年度(2023年5月～2024年4月)を指します。

業務上労働安全衛生、重大事故・災害ゼロ活動

社員の安全衛生は事業継続において重要であり、共に働く仲間とその家族のために重点的に取り組んでいます。安全衛生管理を継続的に進められるよう、事業場の安全衛生水準の継続的な改善を図っています。

頻度	該当する部門	具体的な内容	主なリスクの特定	具体的に対策を強化した内容
年間	安全衛生委員会	▶前期のマネジメントに関する評価 ▶前期の教訓(マネジメントレビュー)を踏まえた見直し計画の策定 ▶安全衛生に関する教育訓練計画の策定 ▶安全衛生年間計画書の策定	火災が発生した際に、迅速に消火させる仕組みが必要であると判断	実際に火災が起こる事を想定し、定期的に防災訓練、また消防との合同訓練を行い緊急時に備えている。
月間	安全衛生委員会	▶ヒヤリハットの抽出、リスクアセスメントの対応 ▶安全パトロール ▶衛生管理者による職場内巡視	近年、夏場の気温が高く熱中症のリスクが高くなっていると判断。	熱中症予防として、飲料水や塩分補給できる食べ物を支給し、水分休憩の時間を設けて、熱中症対策を行っている。
	各部署	▶教育訓練の実施 ▶指摘事項に関する具体的な対策の検討および改善の実行	飲酒運転による事故のリスクがあると判断。	業務開始前後には必ずアルコールチェッカーによるアルコールチェックを行い、酒気帯びの有無を確認している。
週間	各部署	▶同業他社の事故やケガに関するニュースの共有 ▶安全目標の共有と確認	場内作業中に事故や漏洩のリスクがあると判断。	作業ごとに作業内容を確認するチェックリストを用いて、一つずつ安全を確認しながら作業を行い事故や漏洩を防ぐよう努める。
日間	社員全員	▶安全に留意した事業運営の推進		
随時	各部署	▶法令改正に伴う各種要求事項の実施ならびに管理状況等について把握		

主な訓練内容

内部実施	外部実施
防火・避難訓練	安全運転管理者講習
作業手順書を用いた現場における教育訓練	ESJ労働安全衛生研修会
重機作業	ESJ優良認定ドライバー研修
プラント作業	危険物取扱者保安講習
車輛ごとの特性の理解・車輛操作マニュアル教育	酸素欠乏・硫酸水素危険作業主任者技能講習
自主訓練(初期消火、避難、誘導、AED心肺蘇生)	有機溶剤取扱い作業主任者講習
	フォークリフト運転技能講習

※上記以外の訓練についても随時実施しています。



自主訓練の定期実施



消防との合同訓練



ドライバー研修会



工場内教育



AEDの使用講習



安全大会の実施

	ポイント	2021年度	2022年度	2023年度
記録対象となる事故やインシデントの件数	件	—	4	5
労働関連の傷害による死亡者の件数	件	—	0	0
度数率	ポイント	—	0	0
強度率	ポイント	—	0	0
不休災害度数率	ポイント	—	14.85	0
全度数率	ポイント	—	14.85	0

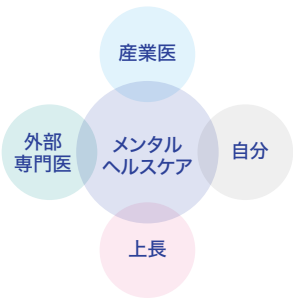
※インシデントとはヒヤリハットやボヤ等の重大な事故につながるケースを指します。※全社員を数値の対象範囲としています。※(○数字)は、不休災害の件数、(●数字)は休業1日以上労働災害を指します。
※ 度数率は、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数をもって、災害発生頻度を表したものを指す。尚、労働災害による死傷者数は、休業1日以上又は身体の一部若しくはその機能を失う労働災害による死傷者数を指します。※強度率は、1,000延べ実労働時間当たりの延べ労働損失日数をもって、災害の重さの程度を表したものを指します。※不休災害度数率は、100万延べ実労働時間当たりの不休災害による傷病者数をもって、不休災害発生頻度を表したものをいいます。※公益社団法人全国産業資源循環連合会安全衛生委員会によると、令和3年度の一般・産業廃棄物処理業の度数率は7.36、強度率は0.17ポイントです。

実績と今後の方針

全員対象	性別・年齢別	追加検査項目
一般健診 ・診察等 ・問診 ・身体計測 ・血圧測定 ・尿検査 ・便潜血反応検査(検便) ・血液検査 ・心電図検査 ・胸部X線検査 ・胃部X線検査(バリウム)	男性	～39歳
		前立腺がん検査(前立腺がん)
		眼圧検査(緑内障)
	女性	40歳～
		腹部超音波検査 ※協会けんぽ未加入者は対象外
		～39歳
		子宮がん検査 ※子宮頸部細胞診
		40歳～
		子宮がん検査 ※子宮頸部細胞診
		甲状腺機能検査(甲状腺)
		眼圧検査(緑内障)
		乳がん検査※(乳腺超音波)

健康経営

働きやすい労働環境、社員のウェルビーイングを更に充実させるため、さまざまな新しい取り組みに挑戦しています。例えば、福利厚生代行サービスの導入によって、新しい資格への挑戦や積極的な休暇取得、健康促進のための活動などを推奨しています。また、メンタルヘルスケアの分野では、年に一度セルフチェックを実施予定です。さらに、女性が現場で活躍できるよう業務設備の見直しと、安全に業務を遂行できるよう定期的なモニタリングを実施しています。今期も八千代市消防との合同訓練を実施し、緊急時の避難方法と避難経路、重要事項の再確認を行いました。社員の能力を最大限に発揮する環境を構築することが企業の役割です。「共に働く仲間と家族のために」引き続き「安全と健康を最優先」してまいります。



季節性、新型インフルエンザに対応した予防接種の実施、流行期におけるマスクの配布などにより、社内外での感染防止に努めています。

当社は社員の健康被害を防止するための対策、モニタリングを実施しています。作業環境中に有害な物質が存在する場合、それを除去あるいは一定限度までの低減を行います。これらの対策のみでは労働者のばく露を十分に防止できない場合、環境保護具の支給・着用の義務付け、場内清掃を徹底するとともに、臭気性のある廃棄物を滞留させないなど、業務上管理上での対策にも取り組んでいます。

また、安全衛生法にしたがって作業環境測定を定期的に実施して社員の健康被害リスクを確認し、対策を推進しています。

対測定場所	項目	頻度	評価	作業員を保護するための取組み
焼却施設	水銀	年2回	2回とも第一管理区域(適切)	▶環境保護具の支給 ▶環境保護具の着用の義務付け ▶こまめな場内清掃の徹底
焼却施設	ダイオキシン	年1回	第一管理区域(適切)	▶環境保護具の着用の義務付け ▶こまめな場内清掃の徹底
焼却施設、セメント固化施設	粉塵	年2回	2回とも第一管理区域(適切)	▶マスクの着用 ▶破碎機の散水による粉塵飛散の抑止 ▶こまめな場内清掃や集塵機活用による粉塵の除去
セメント固化施設、混合施設、分析室	有機溶剤	年2回	第一管理区域(適切)セメント固化施設、混合施設、分析室 第二管理区域(改善の余地あり)BWF出荷ヤード	▶環境保護具の支給 ▶環境保護具の着用の義務付け ▶臭気性のある廃棄物を滞留させないように処理
焼却施設、セメント固化施設、混合施設	臭気	年2回	2回とも第一管理区域(適切)	▶臭気性のある廃棄物を滞留させないように処理

各項目の分析結果は、分析測定会社の測定結果を開示しています。

	人	2021年度	2022年度	2023年度
労働関連の疾病・体調不良	人	0	0	0

※50期は2023年度(2023年5月～2024年4月)を指します。

		単位	第48期	第49期	第50期
全社員 ※役員、派遣社員を除く	全体	人	98	97	102
	男性	人	84	85	90
	女性	人	14	12	12
正社員	全体	人	90	88	96
	男性	人	78	78	85
	女性	人	12	10	11
有期雇用	全体	人	8	9	6
	男性	人	6	7	5
	女性	人	2	2	1
役職者の人数 GL以上の役職者を分子とする。	全体	人	26	28	36
	男性	人	24	26	30
	女性	人	2	2	6
女性の役職者比率　GL以上の役職者を分子とする。		%	7.7%	7.1%	16.7%
平均年齢※正社員	全体	歳	41	42	43
	男性	歳	41	42	42
	女性	歳	45	44	44
勤続年数 ※正社員	全体	年	9	10	9
	男性	年	9	11	10
	女性	年	8	8	8

	2023年5月1日現在(人数)			2023年5月1日現在(割合%)		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計
30歳未満	10	1	11	10%	1%	11%
30歳～50歳	60	8	68	62%	8%	70%
50歳超	16	2	18	16%	2%	19%
計	85	11	96			

※役員、派遣、契約社員除く

項目	第49期	第50期
全社員数における男女比	男 9:女1	男 9:女1
全社員数における国籍が海外の人の割合	0%	0%
全社員数における障がいを持たれている方の雇用の割合	0.97%	0.98%
上級役職者のうち八千代市出身の割合	28.26%	27.27%
終身雇用の社員に支給され、有期雇用の社員に支給されない手当	退職金	退職金

項目	単位		第48期	第49期	第50期
採用人数	全体	人	6	19	21
	男性	人	6	18	16
	女性	人	0	1	5
離職率	全体	%	7.14%	10.31%	9.80%
	男性	%	5.95%	10.59%	9.80%
	女性	%	14.29%	8.33%	0.00%

	第49期年齢別 男女別採用者の内訳(人数)			第49期年齢別・男女別 採用者の割合(%)			第50期年齢別 男女別採用者の内訳(人数)			第50期年齢別・男女別 採用者の割合(%)		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
30歳未満	6	0	6	32%	0%	32%	1	4	5	5%	19%	24%
30歳～50歳	9	1	10	47%	5%	53%	13	1	14	62%	5%	67%
50歳超	3	0	3	16%	0%	16%	2	0	2	10%	0%	10%
計	18	1	19				16	5	21			

	第49期年齢別・男女別 退職者の内訳(人数)			第49期年齢別・男女別 退職者の割合(%)			第50期年齢別・男女別 退職者の内訳(人数)			第50期年齢別・男女別 退職者の割合(%)		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
30歳未満	0	0	0	0%	0%	0%	1	0	1	9%	0%	9%
30歳～50歳	5	0	5	50%	0%	50%	7	0	7	64%	0%	64%
50歳超	4	1	5	40%	10%	50%	3	0	3	27%	0%	27%
計	9	1	10				11	0	11			

	第49期年齢別・男女別 自己都合退職者の内訳(人数)			第49期年齢別・男女別 自己都合退職者の割合(%)			第50期年齢別・男女別 自己都合退職者の内訳(人数)			第50期年齢別・男女別 自己都合退職者の割合(%)		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
30歳未満	0	0	0	0%	0%	0%	0	0	0	0%	0%	0%
30歳～50歳	5	0	5	83%	0%	83%	4	0	4	50%	0%	50%
50歳超	1	0	1	17%	0%	17%	4	0	4	50%	0%	50%
計	6	0	6				8	0	8			

※50期は2023年度(2023年5月～2024年4月)を指します。



Xible's Voice

TOAシブルでは、働きやすい会社の実現のため、さまざまな制度の導入や取り組みにチャレンジしています。

先輩社員の方から話を聞くと、ここ数年で働きやすい会社へと一気に変革していったのだと感じます。中でも私は一時間単位で取得できる有給休暇取得は本当に嬉しい制度だと思っており、実際に定時退社だと病院の受付時間に間に合わない時に1時間早上がりさせていただくなど、有効活用しています。しっかりできるところまで業務をしてから帰ることができるのも嬉しい点です。中抜けも可能なので、子育て世代の社員も多く活用している印象で、社員のQOL向上や働きやすさにつながっていると感じています。

また、資格試験の受験料補助等もあるため、社員全員が平等にチャレンジやスキルアップができる環境が整っています。

今期より福利厚生代行サービス「福利厚生倶楽部」が導入され、飲食店や旅行の割引制度や無料のオンラインセミナーなど、多岐にわたり活用することができています。その中で社員間で感謝を伝え合う「サンクスアワード」というサービスは、手を差し伸べてくれたり、お誕生日の社員にポイントを贈り合っています。今後、このサービスがより浸透することにより、部署関係なくコミュニケーションを深めることができそうです。

そして総務人事のフォローも手厚く、困った時のフォローや相談等もしやすいですし、何かあった時の相談窓口も整っているため、安心して働くことができています。結果的に女性雇用の少ないこの廃棄物処理業界の中でも女性社員の雇用、増員につながっています。環境側面が多く見られがちなSDGsですが、「誰一人取り残さない」のがSDGsです。社員全員が幸せになれる環境がTOAシブルにはあります。

サステナビリティ推進室 成田 光



Third Party

産業廃棄物の再資源化と環境保全に向けた技術革新を通じて、持続可能な社会の実現に大きく貢献されているTOAシブル様。社外の立場から見ても、その取り組みは非常に意義深く、社会全体にとって重要な役割を果たしていると感じています。

産業廃棄物の適切な処理と再資源化は、環境保護の観点からも欠かせない要素です。御社は、廃油のトータルリサイクルのパイオニアとして、再生重油やエマルジョン燃料、再生固形燃料の製造など、多岐にわたるリサイクル技術を駆使し、限りある資源を有効活用し、地球環境の保全に寄与しています。

気候変動や生態系の保護といった環境問題に対する関心が高まる中、サーキュラーエコノミーの推進はますます重要となっています。御社の技術革新と持続可能な経営は、産廃業界の未来を切り拓く鍵となるでしょう。

産廃業界は今後も技術革新とともに進化し続けるでしょう。特に、デジタル技術の導入やAIの活用により、効率的かつ効果的な廃棄物管理が可能となり、さらなる環境負荷の軽減が期待されます。御社はその先駆者として、業界全体の発展を牽引する存在であり続けることを願っています。

企業の成功の鍵は「人」と「組織」にあります。社員一人ひとりが持つ多様なスキルと情熱が、企業の成長を支えています。柔軟な発想と挑戦する姿勢を持つ人材を積極的に採用し、オープンでフラットな組織文化を育むことで、社員が最大限のパフォーマンスを発揮できる環境となります。今後も、採用活動のご支援、優れた人材の確保に貢献できるよう尽力いたします。

今後、御社がさらに発展し、持続可能な社会の実現に向けて一層の貢献を果たすことを心から楽しみにしています。御社の取り組みが、未来の世代にとっても豊かな環境を提供する一助となることを期待しています。

株式会社 morich
代表取締役 兼 All Rounder Agent 森本千賀子様

揺るがない経営基盤の確立

戦略的優先課題(環境におけるコンプライアンスの遵守)

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	2021年度	2022年度	2023年度	評価	ありたい姿
7 クリーンエネルギーに 13 気候変動に 3.9/6.3/6.6/12.4 14.1/15.1/16.3/16.10	労働安全衛生活動	ISO環境目標 騒音・臭気 漏洩事故・苦情	発生件数	騒音・臭気・苦情 0件 漏洩事故4件	漏洩事故 1件	騒音・臭気・苦情 0件 漏洩5件	×	0件
12 つばき資源を 3.6/16.3		交通事故 違反件数	交通事故 違反件数	事故:3件 違反:6件	事故:0件 違反:3件	事故:3件 違反:2件	×	0件

実績と今後の方針

当社では労働安全衛生徹底のため、現場では手順書教育を行い、定常作業、非定常作業に関わらず危険予知（KY活動）を継続して実施しています。また、工場員全員を対象として安全パトロールを実施し、リスク見直しを定期的に行い、再教育の有無を検討しています。2023年度は漏洩事故が5件発生しました。（運輸3件、工場2件）そのうちの1件が、自社工場にて廃油の荷下ろし時にトラックのストレーナーから廃油が溢れて漏洩しました。周辺地域に影響はございませんでした。原因としてはバルブの確認を怠ってしまった事による事故でした。是正処置として廃油荷下ろし時に、チェックリストを用いて立会人のもと作業員が作業内容をダブルチェックし、更に指差し呼称を行い事故防止に努めてまいります。その他業務作業中に違反が2件発生しました。交通事故については3件でした。2023年度は漏洩事故が多発してしまいましたが、事故違反、労働災害ゼロを目指し、労働安全衛生への対策を更に強化するとともに、違反や事故が発生した際は是正処置所に従い適切に対処していきます。



月1回の安全パトロール実施



定期的な設備点検

※50期は2023年度（2023年5月～2024年4月）を指します。

戦略的優先課題(社会面におけるコンプライアンスの遵守)

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	第48期	第49期	第50期
	コンプライアンス経営の推進	コンプライアンス経営の推進	違反件数	0	0	0
		コーポレートガバナンスの強化	コンプラ研修の回数	—	—	0

実績と今後の方針

当社は、2023年度法令等の違反件数は前年度に引き続き0件を達成いたしました。今期より、「揺るがない経営基盤の確立」を当社の重要課題として設定しております。経営の健全性や安定性、また企業の持続的成長を確保するためにコンプライアンスとリスク管理は大変重要な課題と考えております。当社ではそれぞれに規程を定め、重要な案件については各委員会にて審議をする体制を作っています。来期以降、組織の体質改善と働きやすい職場環境整備に重きをおき内部統制システムの更なる構築に努めてまいります。



社員へのヒアリング



社内規定の整備

重要課題	特に細心の注意を払うべき法律のリスト		
限りある資源を大切に	▶廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ▶廃棄物処理法 ▶資源有効利用促進法(各種リサイクル法) ▶電気事業法 ▶建設業法	▶道路運送車両法 ▶循環型社会基本法 ▶化学物質排出把握理解促進法 ▶パズール法 ▶循環型社会基本法	▶千葉県環境基本条例 ▶八千代市環境基本条例 ▶千葉県廃棄物の処理の適正化等に関する条例 ▶千葉県県外産業廃棄物適正処理に関する指導要綱
地球環境をクリーンに	▶地球温暖化対策推進法 ▶フロン排出抑制法 ▶NOx・PM法	▶大気汚染防止法 ▶ダイオキシン類対策特別措置法 ▶PRTR制度	▶PCB廃棄物特別措置法 ▶千葉県大気汚染緊急時対策特別要綱
地域社会との共存共栄	▶悪臭防止法 ▶水質汚濁防止法	▶湖沼水質保全特別措置法 ▶土壌汚染対策法	▶騒音規制法 ▶都市緑地法
豊かな未来を創る組織の実現	▶労働基準法 ▶労働安全衛生法 ▶最低賃金法	▶男女雇用機会均等法 ▶高年齢者雇用安定法 ▶障がい者の雇用の促進等に関する法律	▶育児介護休業法 ▶消防法 ▶健康増進法 ▶道路交通法
揺るがない経営基盤の確立	▶会社法 ▶金融商品取引法	▶下請法 ▶計量法	▶暴力団等排除条例 ▶個人情報保護法 ▶千葉県廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する指導要綱

機密情報の取り扱いについて

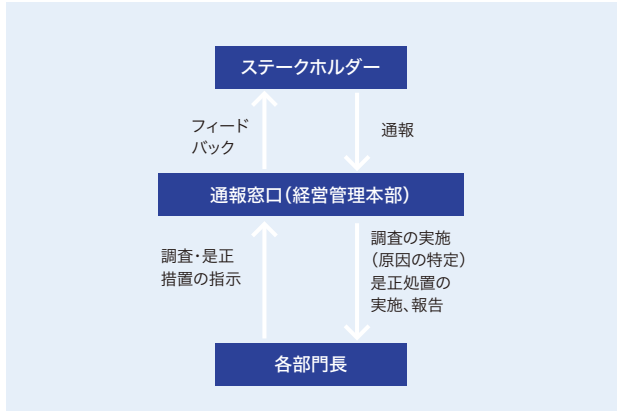
「情報セキュリティ管理規程」を設け、高い情報セキュリティレベルを維持する体制を構築し事業の安定継続を保っています。当社情報システム室には、資格を持った社員が常駐し、常に全社員のパソコンの監視をしています。また、ソフトウェアを常に最新の状態で管理し、不正アクセスを防いでいます。更に全パソコンにウイルス対策を導入することや、記憶媒体の持ち出しに関するルールを設定する等、情報漏洩対策を図っています。個人情報については「個人情報保護規程」に従い厳格な管理を行っております。

サプライチェーンマネジメント

協力会社・パートナー企業のネットワーク拡充により、信頼関係の構築を図り相互の持続的成長につなげることで、安心・安全の提供を推進しています。今後はサプライヤーの皆様との協働をより一層推進させ、事業を通じて社会課題の解決を図り、社会の期待を越える価値を提供してまいります。

社内外の助言を求める制度および懸念を提起するメカニズム

当社が定めるMission(存在意義)には「当社は安全で健康な職場環境を形成するとともに、法令遵守を徹底し、広く地域、産業社会に貢献いたします。」と定めています。コンプライアンスに関する相談や不正行為等の通報の窓口として、社内の窓口と社外の弁護士を直接の情報受領者とする外部窓口を設置しております。これにより、通報者の保護を徹底した運用が可能です。通報のあった案件については調査を行い、通報対象者や案件への個別の対応だけでなく、社内のコンプライアンス・リスク管理委員会に報告をあげ全社的な再発防止策の検討を行っています。



マイナスのインパクトの是正プロセス

ステークホルダーの皆様からのお問合せやご相談、苦情等については、当社ホームページのお問合せ窓口とお電話にて承っています。お客様から頂いたご意見やご要望は、全て社内データベースに集約し、内容を分析し、役職員まで速やかに共有するとともに、社内で検討を行い、企業活動に反映させています。このように一つひとつ真摯に誠実に、かつ迅速に対応することでお客様のニーズをつかみ、新たな価値創造につなげ信頼関係を深めてまいります。

反社会的勢力との関係排除

健全な事業遂行の確保を図るため、定期的に千葉県公安委員会主催の講習に参加しています。契約や取引の際には継続的に反社チェックを実施すること、状況に応じて適切な対応策と外部専門家との連携を取ることであり、リスクの低減と社会的信用の維持を図っています。



	2021年	2022年	2023年
環境違反罰金回数	0回	0回	0回
環境違反罰金額	0円	0円	0円
社会経済分野の法規制の違反	0回	0回	0回

社員や、取引先企業等ステークホルダーからの懸念や苦情を受け入れる窓口を用意しています。当社HPのお問合せ窓口のフォームへの記入又はお電話をご利用いただけます。いただいた情報は厳重な管理のもと、経営管理本部に提出され、各部門長に伝達されます。その後ガイドラインに基づきヒアリングを行い、是正処置を実施します。そして、相談者・通報者が容易に特定されるのを避け、不利益を被らないよう、『公益通報者保護法』に則って適切に対処いたします。今後はよりガバナンス機能を強化するための組織体制づくりを推進していきます。

※50期は2023年度(2023年5月～2024年4月)を指します。

寄付等の社会貢献活動、その他特記すべき取組み



千葉のちから
「中小企業・小規模企業表彰」を受賞

千葉県主催の「千葉のちから『中小企業・小規模企業表彰』」は、地域経済や社会の発展に貢献した千葉県内の中小企業や従業員をたたえるもので、今回、廃油から再生した油をベースに製造したコンクリート剥離剤やCO2の排出削減の取り組みが認められ、当社にとって初の受賞となりました。



能登半島沖地震寄付金

被災された方々の救援や被災地の復旧にお役立ていただくため、石川県に対して、「令和6年能登半島地震復旧・復興支援地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）寄付」を行いました。被災地の復興を心からお祈り申し上げるとともに、今後も復興等の活動に賛同し社会や人と共に生きる企業であり続けられるよう活動してまいります。



千葉ジェッツふなばしとコラボ
「SDGsすごろく」

オフィシャルパートナー契約を結んでいるプロバスケットボールチーム「千葉ジェッツふなばし」とコラボし、子供向けのSDGsすごろくを制作し、出前授業を実施した学校や社員の子ども向けに配布をしました。
よりSDGsや環境問題を「自分事」として捉えていただくような出前授業やイベントを創っていくため、さまざまな取組みにチャレンジしています。



エコスタッフ・ジャパン
優良ドライバー認定

廃棄物に関する窓口「エコスタッフ・ジャパン」が実施している産業廃棄物収集運搬ドライバー検定にて、今期、多くのドライバーがシルバークラスに合格しました。（50期現在：ブロンズクラス9名、シルバークラス17名在中）この検定では収集運搬に関する知識やスキルが問われます。今後も資源物を扱うプロ集団として、安心安全を届けられるよう努めてまいります。



CREDOカード全社員配布

下期全体会議にて、全社員に統一の帰属意識を持っていただきたいという想いからMVVCが書かれたCREDOカードを配布いたしました。社名変更から1年。より会社の帰属意識やエンゲージメントを高められるようこのような活動を継続してまいります。



清掃ボランティア

当社で定期的に行っている美化活動とは別に八千代市のボランティア活動も積極的に参加しています。有志で社員がボランティアに参加し、地域の企業様とコミュニケーションを取りながら清掃を行うことができました。今後も、地域と共に生きる企業であり続けられるよう、地域交流を深めてまいります。



企業環境セミナーへ登壇

千葉商工会議所、NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会主催の企業環境セミナーに登壇しました。当社の積極的なSDGsへの取組みや、ISO取得後の具体的な変化と動き、地球の今について講演いたしました。



千葉県主催「若者が主役の環境保全活動応援事業」の学生見学会

魅力的なボランティアを分野を越境して共に創る活動を行っている「学生団体おりがみ千葉支部」の皆さまが来訪され、当社の工場見学と取組みを見学されました。未来を担う大学生の皆さまが当社の取組みを撮影し、制作された動画は、展示会「エコメッセちば」で公開されました。



おもてなし企画

お客さまや受入業者の皆様向けに年に3回、おもてなし企画と称し、日々の感謝の気持ちを込めて社員でささやかなプレゼントをお渡ししています。今後も地域や社会の笑顔を創っていく企業を目指し邁進してまいります。



※50期は2023年度（2023年5月～2024年4月）を指します。



Xible' s Voice

環境問題の悪化により社会経済動向が日々変動する中、廃棄物処理業界は、公共インフラとしての役割にとどまらず、資源循環ビジネスとしてますます注目されると共に、伸びしろがあると考えております。

当社のESG経営推進にあたり、経営管理本部が主体となりG (Governance) の整備を積極的に進めております。ガバナンスが適切に機能することで、健全な企業活動の運営が可能になり、それは企業価値の向上と持続的な成長を続ける企業としての評価に繋がると確信しております。特に今期は、内部統制システムの構築に取り組んでまいりました。統制の為の環境作り、仕組みの構築情報管理、システムの見直し等を計画的に実行しており、それは51期も継続的に実施してまいります。これにより業務の有効性や効率性を高め、健全な経営を促進してまいります。また、今期よりリスク管理体制確立のためリスク委員会、コンプライアンス委員会を立ち上げております。更に、管理職向けのコンプライアンス研修の実施や、働きやすい環境を整備するため定期的な社員アンケートを行い、社員の意見を吸い上げる仕組みを構築いたしました。51期以降は、内部管理体制の基盤を作ると共に、情報セキュリティ強化を重要課題と捉え、既存システムの見直しを図ると共に協力企業様とも連携を図り、リスクの低減に努めて参ります。

コンプライアンス経営を推進することは、まず一番に弊社で働く社員を守る事に繋がると確信しております。当社は、働く社員全てを人財と捉え、皆が各々ライフスタイルや価値観を大切にしたい働き方ができるよう、規程の整備を進めてまいりました。今後、多様な働き方を更に促進させ、社員個々が自分と異なる価値観を理解する風土を情勢し、より多様な視点を取り入れることが、企業の発展に繋がると考えます。49期より、これまでの評価制度を改定いたしました。企業理念の変更に伴ったもので、これまで以上に社員に企業ビジョンを浸透させたいと考えます。適切な評価により、人財の適切な配置も可能になります。

このような手法により、今後ともより一層公正、透明で信頼を第一とした企業活動が永続的に行えるよう引き続き健全性を高め、地域から選ばれる企業として活動が続けてまいりたいと考えています。

常務取締役兼 CHRO 星野 晃



Third Party

上場企業に対するコーポレートガバナンスの水準が強化される中、大企業と取引をする非上場企業でも、同様にガバナンスの強化が喫緊の課題となってきました。特に取締役会や監査役会に関しては、コンプライアンスの観点だけでも、中長期的な企業価値向上のために、サステナビリティ課題を踏まえながら適切にリスクテイクしつつ、事業収益や資本効率を向上していくという責務を負っています。

当社の取締役及び監査役では、多様な専門性を持つ社外役員が50%を占めており、高い次元で執行を監督する体制が整っています。また、ジェンダーダイバーシティを重視していくため、女性役員割合も30%と日本企業の中では比較的高い水準にあります。取締役会においても、審議事案に多くの時間を割いており、取締役及び監査役の間での活発な議論が実現しています。

当社の事業には社会からの関心もますます高くなっており、今後業界全体で大きな変化が起きていくと予想されます。コーポレートガバナンスのさらなる質の向上に向け、今後とも取締役会の中で重要な議論を積極的に行なっています。

株式会社 ニューラル
代表取締役 CEO 夫馬 賢治様

グループ会社紹介

R's FACTORY 株式会社 アールズファクトリー



関東近郊にわたる「収集運搬」と自社工場による「中間処理」の許可を有しており、お客様が処分したい産業廃棄物について、回収から処理およびリサイクルに至るまで、一貫したシステム体制を確立しているのが強みです。

また非鉄・鉄のスクラップ等につきましても、当社の熟練したプロによる、豊富な経験と実績を基に適正評価を行い、買取も行っております。また、買い取ったスクラップはプロの厳しい目で評価し、付加価値を高めたマテリアルリサイクルを行います。

当社の目標は、サーキュラーエコノミー型社会の構築に向けた取り組みを通じて、環境破壊撲滅へ貢献し、持続可能な明日を創り出す総合的な環境対策企業として成長することです。

詳しくはHPをご覧ください。

事業所
〒277-0872 千葉県柏市十倉二 230-14
TEL:04-7142-2771 FAX:04-7142-2773
<https://www.rs-f.co.jp/company/>



株式会社 大池



昭和56年創業当時より、多岐にわたる石油製品（ガソリン、アルコール類及び各種溶剤、各種テスト用燃料、自動車用添加剤等）の配合、製造、充填、小分けを強みとし、これまで培った経験と技術により、多くのお客様から信頼をいただき、現在では幅広い種類の製品を手掛けております。これからも、年々多様化するニーズにお応えしてまいります。

- ・石油製品の製造販売
 - ・石油化学製品の製造販売
 - ・防錆潤滑油の製造販売及び委託加工
 - ・各種溶剤の製造販売
- 詳しくはHPをご覧ください。

本社・工場
〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎3224番地
TEL:048-955-2245(代) FAX:048-955-2247
<https://ohike.jp>



※50期は2023年度(2023年5月～2024年4月)を指します。

GRIスタンダード

利用に関する声明	株式会社TOAシンプルは、50期(2023年5月～2024年4月)までの期間について、GRIスタンダードを参照して報告する。	
利用したGRI 1	GRI:基礎2021	
該当するGRIセクター別スタンダード	該当なし	
GRIスタンダード / その他の出典	開示事項	掲載場所
一般開示事項		
GRI2：一般開示事項 2021	2-1 組織の詳細	P9
	2-2 組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	P9
	2-3 報告期間、報告頻度、連絡先	P2
	2-4 情報の修正・訂正記述	P20
	2-5 外部保証	P30
	2-6 活動、バリューチェーン、その他のビジネス関係	P7-14 ※1
	2-7 従業員	P61
	2-8 従業員以外の労働者	—
	2-9 ガバナンス構造と構成	P17
	2-10 最高ガバナンス機関における指名と選出	—
	2-11 最高ガバナンス機関の議長	—
	2-12 インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	—
	2-13 インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	—
	2-14 サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	—
	2-15 利益相反	—
	2-16 重大な懸念事項の伝達	—
	2-17 最高ガバナンス機関の集会的知見	—
	2-18 最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	—
	2-19 報酬方針	—
	2-20 報酬の決定プロセス	—
	2-21 年間報酬総額の比率	—
	2-22 持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	P3,4
	2-23 方針声明	P3、4、31、52

GRIスタンダード / その他の出典	開示事項	
一般開示事項		
GRI2：一般開示事項 2021	2-24 方針声明の実践	P18
	2-25 マイナスのインパクトの是正プロセス	P66
	2-26 助言を求める制度および懸念を提起する制度	P66
	2-27 法規制遵守	P65
	2-28 会員資格を持つ団体	P29,30
	2-29 ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	P18
	2-30 労働協約	P17 ※2
マテリアルな項目		
GRI3：マテリアルな項目 2021	3-1 マテリアルな項目の決定プロセス	P19～28
	3-2 マテリアルな項目のリスト	P20,27,28
【エネルギー】		
GRI3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P38-41
GRI 302：エネルギー 2016	306-1 組織内のエネルギー消費量	P43、44
	306-2 組織外のエネルギー消費量	P43、44
	306-3 エネルギー原単位	P44
	306-4 エネルギー原単位	P44
	306-5 製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	P43
【水と廃水】		
GRI3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P45
GRI 303：水と廃水 2018	303-1 共有資源としての水との相互作用	P45
	303-2 排水に関連するインパクトのマネジメント	—
【生物多様性】		
GRI3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P45～47
GRI 304：生物多様性 2016	304-1 保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	P45、46
	304-1 活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	P42、5、46

【大気への排出】		
GRI3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P41～44
GRI 305：大気への排出 2016	305-1 間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ1)	P44
	305-2 間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ2)	P44
	305-3 間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ3)	—
	305-4 温室効果ガス (GHG) 排出原単位	P43
	305-5 温室効果ガス (GHG) 排出量の削減	P43
	305-6 オゾン層破壊物質 (ODS) の排出量	—
	305-7 窒素酸化物 (NOx)、硫黄酸化物 (SOx)、およびその他の重大な大気排出物	P42
【廃棄物】		
GRI3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P31～37
GRI 306: 廃棄物 2020	306-1 廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	P32
	306-2 廃棄物関連の著しいインパクトの管理	P32
	306-3 発生した廃棄物	P32～37
	306-4 処分されなかった廃棄物	P32～37
	306-5 処分された廃棄物	P32～37
【環境コンプライアンス】		
GRI3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P64～66
GRI 307：環境コンプライアンス 2016	307-1 環境法規制の違反	P64
【雇用】		
GRI3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P7～9、P52～56
GRI 401：雇用 2016	401-1 従業員の新規雇用と離職	P62
	401-2 正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	P62
	401-3 育児休暇	P55、56

【労働安全衛生】		
GRI3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P52～60
GRI 403: 労働安全衛生 2018	403-1 労働安全衛生マネジメントシステム	P52
	403-2 危険性(ハザード)の特定、リスク評価、事故調査	P59
	403-3 労働衛生サービス	P59
	403-4 労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	P59
	403-5 労働安全衛生に関する労働者研修	P59
	403-6 労働者の健康増進	P60
	403-7 ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と緩和	P59、60
	403-8 労働安全衛生マネジメントシステムの対象となる労働者	P61
	403-9 労働関連の傷害	P59
	403-10 労働関連の疾病・体調不良	P60
【研修と教育】		
GRI3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P57
GRI 404：研修と教育 2016	404-1 従業員一人あたりの年間平均研修時間	P58
	404-2 従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	P57、58
	404-3 業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	—
【ダイバーシティと機会均等】		
GRI3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P55、56
GRI 405：ダイバーシティと機会均等 2016	405-1 ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	P61、62
	405-2 基本給と報酬総額の男女比	—
【地域コミュニティ】		
GRI3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P48～51、67、68
GRI 413：地域コミュニティ 2016	413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	P9、70
	413-2 地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト(顕在的、潜在的)を及ぼす事業所	P9、、70
【社会経済面のコンプライアンス】		
GRI3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P65、66
GRI 419：社会経済面のコンプライアンス 2016	419-1 社会経済分野の法規制違反	P64～66

※1 詳細は、産廃情報ネットで開示している「優良産廃処理業者認定制度に係る公表事項」を参照。「さんばいくん TOAシプル」で検索、あるいは以下URLでご覧いただけます。
https://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/index_u2.php?UserID=005637 ※2 安全衛生委員会の中に社員代表が所属しています。"

緑豊かな明日を創るために

Keep Doing!